BOOK NEWS from MARUZEN-YUSHODO

2025.04.03 作成

2025 年 3 月新聞書評に掲載された本

潮音<第 1 巻>

宮本 輝 著

文藝春秋

幕末の越中富山に生まれた川上弥一は、藩を挙げての産業・売薬業に身を投じる。やがて薩摩藩を担当する行商人となった弥一は、じょじょに薬売りと薩摩藩をつなぐ「秘密」に気づき始める…。『文學界』掲載を単行本化。

産経新聞 2025/03/02

2025:1./ 485p
978-4-16-391936-2
¥2,420〔税込〕

ひのえうま～江戸から令和の迷信と日本社会～(光文社新書　1348)

吉川徹 著

光文社

高度経済成長只中の 1966 年、日本の出生数が統計史上最低を記録した。その原因となったのが 60 年に一度の干支、丙午(ひのえうま)にまつわる迷信だった。迷信が成立した江戸期にまでさかのぼり、社会現象として読み解く。

産経新聞 2025/03/02

2025:2./ 245p
978-4-334-10553-2
¥990〔税込〕

身近にあるうまい雑草、ヤバイ毒草～美味しい草とよく似た危ない草、徹底的に探してみました～

森 昭彦 著

ＳＢクリエイティブ

身近な草むらや川辺、山すそでみずみずしい葉を広げる植物たち。知られざる美味、珍味もたくさんあるが、一口で病院送りになるもの、命にかかわるものも。魅惑的な植物たちの見分け方から調理法まで紹介する。

産経新聞 2025/03/02

2025:2./ 255p
978-4-8156-2435-4
¥1,760〔税込〕

●ご注文の際には，タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
●原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
●ご注文、ご照会は弊社本・支店・営業部（課）までお申し付けください。
●表示価格は 2025 年 3 月時点での税込み価格です。

MARUZEN-YUSHODO
丸善雄松堂株式会社 ［学術情報ソリューション事業部 企画開発統括部］
〒104-0033 東京都中央区新川 1-28-23 東京ダイヤビルディング 5 号館 10 階
URL kw.maruzen.co.jp Email: marketing@maruzen.co.jp

いまの日本が心配だ～世界から取り残される～

李　相哲 著

青志社

いま日本は、急激に変わりつつある。多くの日本人は変化に気づいていないが、明らかに日本は安くなり貧しくなった。あの良き日本はどこへ行ったのか-。日本の重大危機を、東アジア問題の第一人者が説く。

産経新聞 2025/03/02

2025:1./ 208p
978-4-86590-182-5
¥1,650〔税込〕

ファイブ・アイズ～五カ国諜報同盟 50 年史～

アンソニー・R・ウェルズ 著

作品社

「ファイブ・アイズ」とは、米・英・加・豪・ニュージーランドの五カ国によるインテリジェンス共有体制の通称。50 年にわたって「ファイブ・アイズ」に関与してきた著者が、この同盟の起源と発展、未来を明らかにする。

産経新聞 2025/03/02

2024:12./ 369p
978-4-86793-066-3
¥3,520〔税込〕

昭和 100 年

古市 憲寿 著

講談社

1964 年東京五輪がなければ、高度成長はしていなかったのか? 種子島・宇宙基地、米・核実験博物館などから見えてきた「近代」とは? 古市憲寿が「昭和の夢」の跡を辿り、終わらない昭和を考える。

産経新聞 2025/03/09

2024:12./ 299p
978-4-06-538032-1
¥2,310〔税込〕

泡の子

樋口 六華 著

集英社

新宿駅東口。退廃的で無秩序。ここはつまらない奴らばっかりがいる場所だけど、七瀬だけは違う。私はこの現実で、彼女のために何ができる? 終わってる世界で生きる「私たち」の物語。『すばる』掲載を単行本化。

産経新聞 2025/03/09

2025:2./ 126p
978-4-08-771893-5
¥1,760〔税込〕

はじめての国宝(小学館の図鑑 NEO アート)

小学館

未来を生きる子どもたちに伝えたい「国民の宝」のすべて。絵画、彫刻、工芸品、建築を中心に国宝を豊富な図版で紹介し、見どころや国宝が表す題材、表現の方法、素材と技法、国宝との向き合い方を解説する。ワイドページあり。

産経新聞 2025/03/09

2025:2./ 257p
978-4-09-217267-8
¥2,970〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

『ドラえもん』で哲学する～物事の見方が変わるヒント～(PHP 文庫　お 66-10)

小川 仁志 著

ＰＨＰ研究所

タケコプターとはなんの象徴なのか。四次元ポケットには本当はなにが入っているのか。「どこでもドア」がドアの形をしている理由とは-。「ドラえもん」のひみつ道具を哲学し、物語に秘められたメッセージを読み解く。

産経新聞 2025/03/09

2024:12./ 237p
978-4-569-90453-5
¥968〔税込〕

書庫をあるく～アーカイブの隠れた魅力～

南陀楼綾繁 著

皓星社

個人コレクションからハンセン病療養所の蔵書まで、普段は一般利用者が入ることができない閉架書庫に足を踏み入れ、書庫内を知り尽くす館員に資料の管理や活用について話を聞く。『日本の古本屋』メールマガジン連載を書籍化。

産経新聞 2025/03/09

2024:12./ 256p
978-4-7744-0840-8
¥2,530〔税込〕

大いなるナショナリスト福澤諭吉

渡辺 利夫 著

藤原書店

「立国の公道」はナショナリズムである-。福澤自身が書き残した文献に当たり、「欧化主義者」「文明開化論者」「啓蒙思想家」に偏った福澤諭吉像を刷新し、現代日本に求められるその思想の核心に迫る。

産経新聞 2025/03/09

2025:1./ 257p
978-4-86578-449-7
¥2,640〔税込〕

WAR3 つの戦争

ボブ・ウッドワード 著

日経ＢＰ社

習近平は米国の混乱をどう見るか。中東は全面戦争に突入するか。トランプとプーチンの「取引」とは。アメリカを代表するジャーナリストが、ウクライナ、中東、アメリカ大統領選という「3 つの戦争」の舞台裏を徹底解説する。

産経新聞 2025/03/09、日本経済新聞 2025/03/29

2025:1./ 565p 図版16p
978-4-296-12179-3
¥2,750〔税込〕

2030 年の戦争(日経プレミアシリーズ　522)

小泉悠／山口亮 著

日経ＢＰ社

中国の軍備拡大、北朝鮮の核開発、ロシアのウクライナ侵略と、日本の安全保障環境は風雲急を告げる。現代の戦争とはどのようなものか? 日本が戦争に巻き込まれるとしたらどんな事態か? 気鋭の軍事研究家が徹底議論する。

産経新聞 2025/03/16

2025:1./ 243p
978-4-296-11803-8
¥990〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ゆきてかへらぬ～田中陽造自選シナリオ集～

田中陽造 著
国書刊行会
「セーラー服と機関銃」「ツィゴイネルワイゼン」などの名脚本で知られる田中陽造、初の自選作品集。2025 年 2 月公開映画「ゆきてかへらぬ」など全 9 篇を収録。

産経新聞 2025/03/16

2025:2./ 398p
978-4-336-07747-9
¥4,400〔税込〕

難民に冷たい国?ニッポン～支援と審査の現場から～

柳瀬 房子 著
慶應義塾大学出版会
多くの外国人がなぜ日本に来るのか、なぜ来ない(来られない)のか。何を求め、日本人はそれに応えられているのか。長らく難民支援に携わってきた著者が、日本の難民支援の歴史と現状、そして多文化共生に向けた課題を語る。

産経新聞 2025/03/16

2024:12./ 336p
978-4-7664-2968-8
¥2,200〔税込〕

生き続ける震災遺構～三陸の人びとの生活史より～

坂口　奈央 著
ナカニシヤ出版
東日本大震災の被害の大きさを伝える震災遺構に、三陸に生きる人びとはどのような意味を見いだしていったのか。東日本大震災から 10 年以上にわたる観察と生活史調査をもとに、その動的プロセスについて論じる。

産経新聞 2025/03/16

2025:2./ 284p
978-4-7795-1850-8
¥3,960〔税込〕

私、合ってますよね?～しちゃう、できない、やめられないの正体～

玉井 仁 著
モラロジー道徳教育財団
正しさから抜け出せない、自分も他人も信頼できない…。カウンセラーのカフェに、7 人の悩める客が来店。彼らが持つ考え方や行動のクセ、問題や課題の正体やそこからの抜け出し方を、エリクソンの発達段階を踏まえて解説する。

産経新聞 2025/03/16

2025:2./ 205p
978-4-89639-297-5
¥1,540〔税込〕

めざせマントル!～地球を掘る地質学者の冒険～(岩波科学ライブラリー 331)

道林 克禎 著
岩波書店
地球を知る鍵を秘めた鮮やかな緑色の岩石を求めて-。研究を始めるきっかけとなったフランス留学時代、カンラン岩を求めて砂漠を歩き、船上で岩石と格闘し、ついには水深約 9800m の海溝の底にまで潜った研究者の見聞記。

産経新聞 2025/03/23

2025:3./ 144p
978-4-00-029731-8
¥1,650〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

テクノ封建制～デジタル空間の領主たちが私たち農奴を支配するとんでもなく醜くて、不公平な経済の話。～(集英社シリーズ・コモン)

ヤニス・バルファキス 著
集英社
資本主義はすでに終焉を迎え、グーグルやアップルなどの巨大テック企業が人々を支配する「テクノ封建制」が始まっている。この不公平なシステムを打ち破る鍵はどこにあるのか? 異端の経済学者が、社会の変質を看破する。

産経新聞 2025/03/23

2025:2./ 319p
978-4-08-737008-9
¥1,980〔税込〕

中国の恐るべき監視体制～独裁政治の未来～

ミンシン・ペイ 著
河出書房新社
なぜ中国では、強固な監視体制が維持されているのか。反体制派を未然に摘み取る「予防的弾圧」、効率のよい「分散型監視」、スカイネットやシャープアイズ等の先端技術を詳細に分析し、中国の独裁政権の実態を明かす。

産経新聞 2025/03/23

2024:12./ 293p
978-4-309-22949-2
¥3,850〔税込〕

古本屋の誕生～東京古書店史～

鹿島 茂 著
草思社
「知と文化の集積地」はいかにして作られてきたか? 江戸時代の「書店」の誕生から、明治以降の東京古書界の変遷、戦後の復興と発展まで、本の街の歴史を詳細にたどる。

産経新聞 2025/03/23

2025:2./ 286p
978-4-7942-2766-9
¥2,420〔税込〕

SNS 時代の戦略兵器陰謀論～民主主義をむしばむ認知戦の脅威～

長迫智子／小谷 賢／大澤 淳 著
ウェッジ
戦争、新型コロナ、アメリカ大統領選挙…。ネット空間には荒唐無稽な陰謀論が飛び交っている。偽情報が世界を動かす時代に、我々はどう備えるべきか? 専門家 3 人が、陰謀論に安全保障の視点から切り込み、その全体像に迫る。

産経新聞 2025/03/23

2025:1./ 245p
978-4-86310-291-0
¥1,980〔税込〕

看取られる神社～変わりゆく聖地のゆくえ～(叢書・地球のナラティブ)

嶋田　奈穂子 著
あいり出版
神社とは何か。人はその土地に何を見て「聖地」としているのか。なぜ、そこにあるのか。聖地が生まれる場、育つ場、看取られる場を追い、聖地がどのような場所なのかを考える。英文抄録も掲載。

産経新聞 2025/03/23

2024:12./ 165p
978-4-86555-120-4
¥1,650〔税込〕

サイバー覇権戦争～ソフトとハード、二つの戦線～

ジェイコブ・ヘルバーグ 著

作品社

新たな戦争=グレー戦争の主戦場であるサイバー空間での戦いを、ソフトウェアとハードウェアの二つの戦線に整理。テクノロジー権威主義国の攻撃の実態を明らかにし、民主主義国はいかに対処すべきかを示す。

産経新聞 2025/03/23

2025:3./ 427p
978-4-86793-062-5
¥3,740〔税込〕

世界の終わりの最後の殺人

スチュアート・タートン 著

文藝春秋

世界は謎の「霧」によって滅亡し、人類が生き残るのはバリアに囲まれた孤島ひとつのみ。3 人の科学者と AI の管理のもと、100 人超の村民が自給自足の生活を送る。ある日科学者の 1 人が殺され、バリアが解除されてしまい…。

産経新聞 2025/03/30

2025:3./ 423p
978-4-16-391958-4
¥3,190〔税込〕

人生劇場

桜木紫乃 著

徳間書店

劣等感を抱える猛夫は、いつか皆を見返してやりたいと思うように。理容師として独立、ラブホテル経営と、届かぬ夢だけを追い続けた男の行く末は。北の大地で生きる家族の光と闇を描く。『アサヒ芸能』連載を大幅に加筆修正。

産経新聞 2025/03/30

2025:3./ 460p
978-4-19-865973-8
¥2,310〔税込〕

文化系のための野球入門～「野球部はクソ」を解剖する～(光文社新書 1352)

中野慧 著

光文社

根性論、性差別的、厳しい上下関係…。文化系の人間や SNS の世論を中心に批判が根強い、野球部や体育会系。野球をポップカルチャーとして捉え、批評を通じて野球と社会を繋ぎ直す。『PLANETS』連載をもとに書籍化。

産経新聞 2025/03/30

2025:3./ 361p
978-4-334-10587-7
¥1,144〔税込〕

物理学者の心

マーニー 著

祥伝社

ピアニスト・鈴木尚美は、毎週ショッピングモールでの演奏を聴きにくる変な帽子の男に接近を試みた。物理学者だという男・松崎仁は、自分の頭にある強力な磁場が人類にとって危険なため、死ぬしかないと言い出して…。

産経新聞 2025/03/30

2025:2./ 313p
978-4-396-63675-3
¥1,870〔税込〕

ことばのまわり～10 年目を歩く～

2025:1./ 217p
978-4-904863-84-8
¥2,200〔税込〕

ことばのまわり編集室（川延安直・小林めぐみ・赤間政昭） 編
乾久子 著
荒蝦夷
東日本大震災から 10 年目の 2021 年 3 月 11 日、改めて福島を歩き始めた美術家。春夏秋冬延べ 32 日の旅日記と、精選したドローイング 23 点を集成する。写真、展示や鼎談の記録なども掲載。

産経新聞 2025/03/30

港たち

2025:1./ 221p
978-4-08-771889-8
¥1,980〔税込〕

古川 真人 著
集英社
季節は巡る。家族は変わる? 芥川賞受賞作「背高泡立草」に連なる、生活・家族・歴史を小さな島に舫う 1 年間の物語。全 5 編を収録。『すばる』掲載を加筆・修正し単行本化。

朝日新聞 2025/02/28、産経新聞 2025/03/02、日本経済新聞 2025/03/29

美は傷(アジア文芸ライブラリー)

2025:1./ 536p
978-4-393-45511-1
¥4,400〔税込〕

エカ・クルニアワン 著
春秋社
植民地統治、日本軍による占領、独立、政変と弾圧といった暴力の歴史を軸に、ジャワ島南部の架空の港町ハリムンダに生まれた娼婦デウィ・アユとその一族を襲った悲劇を描く。奇想天外なマジックリアリズム小説。

朝日新聞 2025/02/28、読売新聞 2025/03/02、朝日新聞 2025/03/29

続あゝ野麦峠(角川文庫)

1982:1./ 332p

山本 茂実 著
角川書店
朝日新聞 2025/03/01

20 代で得た知見

2020:9./ 285p
978-4-04-604799-1
¥1,430〔税込〕

F 著
KADOKAWA
人生は、忘れがたい断片にいくつ出会い、心を動かされたかで決まる-。2017 年刊「いつか別れる。でもそれは今日ではない」の著者が「20 代で得た知見」として、時代を生き抜くのに必要なこと、愛に纏わることなどを綴る。

朝日新聞 2025/03/01

MARUZEN-YUSHODO

聖職の碑　新装版(講談社文庫　に 4-13)

新田 次郎 著
講談社
信濃教育界の白樺派理想主義教育と実践主義教育との軋轢、そして山の稜線上に立つ碑は、なぜ「慰霊碑」ではなく「遭難記念碑」なのか。悲劇の全体像を真摯に描き出す。

朝日新聞 2025/03/01

2011:6./ 456p
978-4-06-276991-4
¥902〔税込〕

働くことの小さな革命～ルポ日本の「社会的連帯経済」～(集英社新書 1249)

工藤 律子 著
集英社
利益追求を目的としない組織が連携し、新しい経済圏を形作る「社会的連帯経済」。日本各地での取り組みや事例を紹介し、資本主義によって失われた人のつながりや、小さなコモンを育む人々を描く。

朝日新聞 2025/03/01

2025:2./ 237p
978-4-08-721349-2
¥1,100〔税込〕

東京最低最悪最高!<1>(ビッグ コミックス)

鳥 トマト 著
小学館
超絶バズの大問題作!令和東京残酷物語。なんでも手に入るはずだったこの街で、大切なものは何ひとつ手にできなかった大人たちが贈る令和東京物語、開幕。

朝日新聞 2025/03/01

2025:1./ 192p
978-4-09-863092-9
¥770〔税込〕

ユニ様の舟<1>(ビッグ コミックス)

野咲 ソウ 著
小学館
朝日新聞 2025/03/01

2025:2./ 192p
978-4-09-863192-6
¥770〔税込〕

どくとるマンボウ青春記(新潮文庫)

北 杜夫 著
新潮社
朝日新聞 2025/03/01

2000:9./ 326p
978-4-10-113152-8
¥737〔税込〕

恋(新潮文庫)

小池 真理子 著
新潮社
朝日新聞 2025/03/01

2002:12./ 517p
978-4-10-144016-3
¥880〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ソラリス<上>(HAYAcomic)

スタニスワフ・レム／森泉　岳土 著

早川書房

意識を持つ静謐な海に表面を覆われた惑星ソラリス。心理学者ケルヴィンは、その謎を解明するべく派遣されるが…。傑作古典 SF の世界観を描いたコミック。上は、『ハヤコミ』掲載第 1 話～第 5 話を収録。

朝日新聞 2025/03/01

2025:1./ 174p
978-4-15-210399-4
¥1,980〔税込〕

ソラリス<下>(HAYAcomic)

スタニスワフ・レム／森泉　岳土 著

早川書房

意識を持つ静謐な海に表面を覆われた惑星ソラリス。心理学者ケルヴィンは、その謎を解明するべく派遣されるが…。傑作古典 SF の世界観を描いたコミック。下は、『ハヤコミ』掲載第 6 話～第 10 話を収録。

朝日新聞 2025/03/01

2025:1./ 214p
978-4-15-210400-7
¥1,980〔税込〕

ザ・ルーム・ネクスト・ドア

シーグリッド・ヌーネス 著

早川書房

重い病を患う友人を見舞った作家に、友人は「心の準備ができたら薬を飲んで死を選ぶ」と告げ、その時まで隣にいてほしいと頼む。思いがけぬ日々に作家が見たものは-。苦しい時を生きる人々を共感とユーモアをもって描き出す。

朝日新聞 2025/03/01

2025:1./ 237p
978-4-15-210410-6
¥2,420〔税込〕

阿弥陀堂だより(文春文庫)

南木 佳士 著

文芸春秋

作家として自信を失くした夫と、医師としての方向を見失った妻は、山間の美しい村でふしぎな老婆に出会う。人生を問い直す傑作

朝日新聞 2025/03/01

2002:8./ 237p
978-4-16-754507-9
¥704〔税込〕

貧困とは何か～「健康で文化的な最低限度の生活」という難問～(ちくま新書 1843)

志賀 信夫 著

筑摩書房

生きてさえいければ貧困ではない? 貧困から抜け出せないのは努力が足りないから? 気鋭の研究者が「貧困」概念をめぐる議論と問題点を整理し、「貧困」が今もなくならないのはなぜかという根本的な問いに対峙する。

朝日新聞 2025/03/01

2025:2./ 213p
978-4-480-07669-4
¥968〔税込〕

安曇野 5 冊セット限定版

2000:11.

臼井 吉見 著
筑摩書房
激動の明治から昭和を描く本格的大河小説。2000 年 11 月セット復刊。

朝日新聞 2025/03/01

オペレーションの思想～戦後日本美術史における見えない手～

2024:11./ 448p
978-4-7816-2389-4
¥5,500〔税込〕

富井 玲子 著
イースト・プレス
戦後日本美術を俯瞰し、グローバルかつ脱西洋中心主義的な視点から、その到達点を示し、近現代美術の 100 余年の歴史を支えてきた見えない仕組み(=オペレーション)を看破する。

朝日新聞 2025/03/01

帝国劇場アニバーサリーブック NEW HISTORY COMING～THE IMPERIAL THEATRE FROM 1966 TO 2025 AND THE BEYOND～

2024:12./ 351p
978-4-8356-5005-0
¥5,989〔税込〕

ぴあ
1966 年開場以来さまざまな演目を上演し、建て替えのため 2025 年 2 月より休館する帝国劇場(帝劇)のアニバーサリーブック。帝劇の内外観の美しい写真と、191 人の俳優・クリエイターの証言を収録する。

朝日新聞 2025/03/01

スクリーンのなかの障害～わかりあうことが隠すもの～

2024:11./ 224p
978-4-8459-2311-3
¥2,640〔税込〕

塙 幸枝 著
フィルムアート社
映画は障害をどのように描いてきたのか? 障害がテーマの映画作品を取り上げ、歴史、物語のパターン、再現による同一化、当事者性など、様々な角度から映画と障害のつながりを解き明かす。テキストデータの引換券付き。

朝日新聞 2025/03/01

美しい人～佐多稲子の昭和～

2024:11./ 351p
978-4-87586-713-5
¥3,300〔税込〕

佐久間文子 著
芸術新聞社
代表作に「キャラメル工場から」等があるプロレタリア文学の旗手・佐多稲子。小学校中退、工場勤め、結婚、自殺未遂、作家活動…。昭和という長い時代を生きた作家の 94 年の生涯を追う。『芸術新聞社』Web 連載を加筆修正。

朝日新聞 2025/03/01

MARUZEN-YUSHODO

ゆめがきました

三好 愛 著

ミシマ社

寝ているひとたちみんなのところに「ゆめ」はきました。「よぞらでゼリーをたべるゆめ」「おかあさんがふえるゆめ」「ねことおんせんにいくゆめ」…。今日はどんなゆめがやってくる?

朝日新聞 2025/03/01

2024:11./ 32p
978-4-911226-12-4
¥2,200〔税込〕

1インチの攻防～NATO拡大とポスト冷戦秩序の構築～<上>

M.E.サロッティ 著

岩波書店

アメリカ・ロシア・欧州各国のリーダーたちがNATO拡大をめぐってせめぎあう1990年代のドラマ。上は、冷戦の終焉からドイツ統一、ソ連の解体、そして米ロ関係が良好な時期を迎えた90年代前半を扱う。

朝日新聞 2025/03/01、読売新聞 2025/03/23

2024:12./ 462p
978-4-00-061673-7
¥4,180〔税込〕

1インチの攻防～NATO拡大とポスト冷戦秩序の構築～<下>

M.E.サロッティ 著

岩波書店

アメリカ・ロシア・欧州各国のリーダーたちがNATO拡大をめぐってせめぎあう1990年代のドラマ。下は、中・東欧諸国のNATO加盟が進められることで、米ロ対立があらわになる90年代後半を扱う。

朝日新聞 2025/03/01、読売新聞 2025/03/23

2024:12./ 446p
978-4-00-061674-4
¥4,180〔税込〕

夏目漱石 美術を見る眼

ホンダ・アキノ 著

平凡社

明治40年、東大教授を蹴って朝日新聞に入社し、芸術に関する記事を綴った夏目漱石。“美術の門外漢”として書きのこした言葉から、漱石が同時代の美術にどのように対峙したのかを追い、漱石の生きる姿勢を浮き彫りにする。

朝日新聞 2025/03/01、毎日新聞 2025/03/01

2024:12./ 261p
978-4-582-83975-3
¥2,750〔税込〕

原子力の社会史～その日本的展開～　新版(朝日選書　883)

吉岡　斉 著

朝日新聞出版

原爆研究から福島第一原発事故まで、日本の原子力開発はどのように進められてきたのか。それらを担ってきた政・官・産・学・自治体のせめぎあい、さらに背景にある核をめぐる国際政治などをあざやかに切り分けた本格的通史。

朝日新聞 2025/03/08

2011:10./ 399p
978-4-02-259983-4
¥2,090〔税込〕

核兵器と原発～日本が抱える「核」のジレンマ～(講談社現代新書　2458)

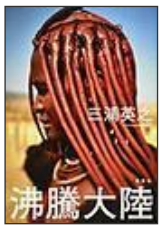
鈴木 達治郎 著

講談社

「核の傘」は日本国民を本当に守ってくれるのか? なぜ自民党は原発政策を逆行させようとするのか? 原子力委員会の元委員長代理が、日本の核の真実を明かす。

朝日新聞 2025/03/08

2017:12./ 214p
978-4-06-288458-7
¥880〔税込〕



沸騰大陸

三浦 英之 著

集英社

アフリカ特派員として過ごした 3 年間。著者の手元には膨大な未発表メモが残された。「生け贄として埋められる子ども」「銃撃を逃れて毒ナタを振るう少年」など、驚くべき事実に満ちたルポ・エッセイ。『イミダス』連載を加筆。

朝日新聞 2025/03/08

2024:10./ 220p
978-4-08-781760-7
¥2,090〔税込〕

族長の秋(新潮文庫　カ-24-3)

ガブリエル・ガルシア＝マルケス 著

新潮社

何百年も国家に君臨し、誰も顔を見たことのない孤独で残虐な大統領が死んだ。腹心の将軍をオーブンで焼き、2 千人の子供を船に載せてダイナマイトで爆殺したという独裁者-。権力の実相をグロテスクなまでに描く。

朝日新聞 2025/03/08

2025:3./ 418p
978-4-10-205213-6
¥1,100〔税込〕

天使は見えないから、描かない

島本 理生 著

新潮社

弁護士の永遠子は実の叔父と逢瀬を重ねている。夫が浮気相手を妊娠させたため離婚し、惰性で付き合った若い恋人とも別れてしまう。ようやく自らの叔父への歪な欲望に向き合った永遠子は…。『小説新潮』掲載を加筆修正。

朝日新聞 2025/03/08

2025:1./ 251p
978-4-10-302033-2
¥1,870〔税込〕

楽園の楽園

伊坂幸太郎 著

中央公論新社

謎の人工知能「天軸」の暴走で、世界は混乱に陥った。五十九彦、三瑚嬢、蝶八隗の 3 人は、人工知能の開発者が描いたという巨大な樹の絵画「楽園」を手掛かりに、暴走する「天軸」の所在を探り…。

朝日新聞 2025/03/08

2025:1./ 97p
978-4-12-005875-2
¥1,650〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

死神の精度　新装版(文春文庫　い 70-3)

伊坂 幸太郎 著
文藝春秋
好きなものは音楽、嫌いなものは渋滞。死神・千葉は、人間の世界に溶け込み、7 日間の調査で対象者の「死」に可否の判断を下す-。死神と人の奇妙なかけあいが癖になる傑作短編集。著者のインタビューも収録する。

朝日新聞 2025/03/08

2025:2./ 345p
978-4-16-792337-2
¥858〔税込〕

外道の細道(河出文庫　ま 17-6)

町田 康 著
河出書房新社
作家マーチダは、ドキュメンタリー製作のため、プロデューサーやディレクターなどメディア界隈に棲息する外道とともに、敬愛する作家ブコウスキーの足跡をたどる旅に出て…。最高にくだらなく、オフビートな実録ロード小説。

朝日新聞 2025/03/08

2025:2./ 358p
978-4-309-42167-4
¥1,320〔税込〕

まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書

阿部幸大 著
光文社
期末レポートからトップジャーナルまで、アカデミックな文章を書くために必要なテクニックや考え方、それらを身につけるための具体的なトレーニング方法を紹介する。

朝日新聞 2025/03/08

2024:7./ 173p
978-4-334-10380-4
¥1,980〔税込〕

行動経済学で「未知のワクチン」に向き合う

佐々木 周作、大竹 文雄、齋藤 智也 著
日本評論社
行動経済学者と感染症学者がチームを組みパンデミック下の未知のワクチンに挑んだ。コロナ危機の政策現場に寄り添いながら試行錯誤を繰り返し…。行動経済学という学問の視点で、予防接種を促す政策とその背景を紹介する。

朝日新聞 2025/03/08

2025:1./ 340p
978-4-535-54074-3
¥2,420〔税込〕

ユーリー・ノルシュテイン文学と戦争を語る(ラピュタ新書　009)

ユーリー・ノルシュテイン、児島　宏子、才谷　遼、鴻　英良、毛利　公美、守屋　愛 著
ふゅーじょんぷろだくと
文学は、芸術は、文化は、戦争に抗えるのだろうか? 2023 年に行った、モスクワで暮らすアニメーションの巨匠ノルシュテインへのインタビューを収録する。同名映画からこぼれ落ちた言葉をまとめる。

朝日新聞 2025/03/08

2024:10./ 207p

北海道新聞が伝える核のごみ考えるヒント

北海道新聞社 編
関口　裕士 著
北海道新聞社
原発が吐き出す最終的な「核のごみ」高レベル放射性廃棄物。処分候補地になる動きが表面化した北海道の寿都町や神恵内村などの動向と様々な人々へのインタビューを収録。『北海道新聞』掲載記事に加筆、修正し再構成。

朝日新聞 2025/03/08

2021:5./ 63p
978-4-86721-029-1
¥1,100〔税込〕

ホーム・スウィート・ホーム

杉本 彩子 著
工作舎
自分たちが望む暮らし方や住まい空間を模索している家々を取材。考現学的アプローチによる俯瞰イラストと生き方に肉薄するルポルタージュを通して、人それぞれの「スウィート・ホーム」の多様なあり方を浮き彫りにする。

朝日新聞 2025/03/08

2024:12./ 247p
978-4-87502-573-3
¥3,080〔税込〕

そこから先は別世界～妄想映画日記 2021-2023～

樋口　泰人 著
boid
コロナ禍での経済的打撃、友人たちの死、自身の病…。苦境の中で聞こえない声に耳を澄まし見えない何かに目を凝らし、いるはずのない何かとともに新たな「生」を生み出し続けた 3 年の記録。『boid マガジン』連載を書籍化。

朝日新聞 2025/03/08

2024:12./ 486p
978-4-9912391-4-4
¥4,180〔税込〕

陽だまりの昭和

川本　三郎 著
白水社
庶民の暮しの中にあった温もり、小さな楽しみ、女性たちの輝き、青春、おしゃれ…。失われた昭和の風景を、映画や文学などに描かれた場面から浮かび上がらせる。『コモ・レ・バ?』連載を加筆修正、書き下ろしを加えて書籍化。

朝日新聞 2025/03/08、毎日新聞 2025/03/22

2025:2./ 224p
978-4-560-09150-0
¥2,640〔税込〕

リンカン～「合衆国市民」の創造者～(岩波新書　新赤版 2054)

紀平 英作 著
岩波書店
何百万もの黒人奴隷を国内に抱えるなかで迎えた南北戦争という分断の危機において、リンカンはいかにして「人民の共和国」という統合の理念を構想しえたのか。政治的リーダーシップの源泉を問う評伝。

朝日新聞 2025/03/15

2025:2./ 244p
978-4-00-432054-8
¥1,100〔税込〕

死の瞬間～人はなぜ好奇心を抱くのか～(朝日新書　975)

春日武彦 著

朝日新聞出版

人が最大の禁忌である「死」に魅了される理由は、「グロテスク」「呪詛」「根源的な不快感」にある-。精神科医が崇高でありつつも卑俗な魅力を放つ「死」にひかれてしまう複雑な心理を、小説や映画の読解を交えて分析する。

朝日新聞 2025/03/15

2024:11./ 230p
978-4-02-295287-5
¥990〔税込〕

貧困旅行記　新版(新潮文庫)

つげ義春 著

新潮社

朝日新聞 2025/03/15

1995:4./ 281p
978-4-10-132812-6
¥737〔税込〕

近代日本の対中国感情～なぜ民衆は嫌悪していったか～(中公新書　2842)

金山泰志 著

中央公論新社

明治から昭和戦前までの民衆が愛読した少年雑誌に着目し、赤裸々な図版から民衆の対中感情を追い、古代中国への変わらぬ思慕とは対照的に、同時代中国への露骨な差別意識、感情を描く。図版も多数収録。

朝日新聞 2025/03/15

2025:2./ 232p
978-4-12-102842-6
¥946〔税込〕

ほのぼの路線バスの旅(中公文庫　た 24-3)

田中 小実昌 著

中央公論新社

いい景色、いい町、いい飲屋、そしてたくさんの人。東海道を西へ、もっと西へ西へ。路線バスの旅はうれしい。思い出をつむぎながらゆくコミさんのノスタルジック・ジャーニー。戌井昭人による巻末エッセイも収録。

朝日新聞 2025/03/15

2020:4./ 264p
978-4-12-206870-4
¥946〔税込〕

新・古代史～グローバルヒストリーで迫る邪馬台国、ヤマト王権～(NHK 出版新書　735)

NHK スペシャル取材班 著

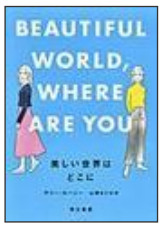
ＮＨＫ出版

最新の発掘調査と AI・DNA 分析などの科学的アプローチ、さらには中国や韓国の国際研究の成果から、「日本」という国の始まりを多数の写真や図版とともに解説する。「NHK スペシャル古代史ミステリー」をもとに書籍化。

朝日新聞 2025/03/15

2025:1./ 270p
978-4-14-088735-6
¥1,078〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO



美しい世界はどこに

サリー・ルーニー 著
早川書房
作家のアリスは田舎に移り住み、倉庫作業員の男性と知り合う。アリスの親友アイリーンは恋人との別れから立ち直れずに鬱々と暮らし、アリスと長文メールを交わすが…。社会の理想と現実の差に苦しむ若者たちを描いた長篇小説。

朝日新聞 2025/03/15

2025:2./ 367p
978-4-15-210407-6
¥2,970〔税込〕

投票の倫理学～ちゃんと投票するってどういうこと?～<上>

ジェイソン・ブレナン 著
勁草書房
私たちは投票にあたっていかなる態度を取るべきなのか。常識を正面から疑い、真剣に投票すること、また投票を棄権することの意味を深く緻密に考える。極めてアクチュアルな政治的・倫理的考察。

朝日新聞 2025/03/15

2025:1./ 216p
978-4-326-35194-7
¥3,300〔税込〕

投票の倫理学～ちゃんと投票するってどういうこと?～<下>

ジェイソン・ブレナン 著
勁草書房
私たちは投票にあたっていかなる態度を取るべきなのか。常識を正面から疑い、真剣に投票すること、また投票を棄権することの意味を深く緻密に考える。極めてアクチュアルな政治的・倫理的考察。

朝日新聞 2025/03/15

2025:1./ 248p
978-4-326-35195-4
¥3,300〔税込〕

ほじくりストリートビュー(散歩の達人 POCKET)

能町　みね子 著
交通新聞社
地図で見つけた変な境目・細すぎる道・行き止まりを現地でほじくれ! グーグルマップや地図で気になって実際に行った場所を 7 タイプに分け、イラストや写真とともに観察記を書き綴る。月刊『散歩の達人』掲載に加筆・修正。

朝日新聞 2025/03/15

2017:5./ 191p
978-4-330-77617-0
¥1,430〔税込〕

日本の反戦非戦の系譜～アジア・ビジョンをどう描くか～

石原　享一 著
白水社
ふたたび戦争への轍を踏まないようにするにはどうしたらよいか。「反戦」や「非戦」、「アジアの連帯」という、いまや打ち捨てられようとしている問題群に、現代の世界情勢を踏まえて再接近しようとする試み。

朝日新聞 2025/03/15

2024:10./ 267p
978-4-560-09142-5
¥2,420〔税込〕

火打石と火打金の文化史～考古学からみた火起こしの研究～

藤木　聡 著
吉川弘文館
九州・朝鮮半島・中国東北部・台湾などから出土した火起こしの道具である火打石と火打金に着目し、物質文化の起源や特質を追究。考古・民俗・文献・絵画資料などを駆使して、東アジアの発火具の歴史を立体的に描く。

朝日新聞 2025/03/15

2025:1./ 258p
978-4-642-09367-5
¥14,300〔税込〕

パリのガイドブックで東京の町を闊歩する<2> 読めないガイドブック

友田 とん 著
代わりに読む人
荻窪のコンビニから村上春樹、そしてパリのノートルダムへ…。東京のガイドブックには頼らず、パリのガイドブックを読んで、東京を歩いた日々を綴る。日常を冒険に変える奔放な思考の脱線、第 2 弾。

朝日新聞 2025/03/15

2020:11./ 92p
978-4-9910743-2-5
¥1,650〔税込〕

対馬の海に沈む

窪田 新之助 著
集英社
日本一の営業実績を誇った、JA 対馬の男性職員が溺死した。彼には巨額の横領の疑いがあったが、果たしてこれは彼一人の悪事だったのか…。営業ノルマという JA の構造上の問題と金を巡る人間模様を抉り出すノンフィクション。

朝日新聞 2025/03/22

2024:12./ 323p
978-4-08-781761-4
¥2,310〔税込〕

最長片道切符の旅　改版(新潮文庫)

宮脇 俊三 著
新潮社
朝日新聞 2025/03/22

2008:9./ 434p
978-4-10-126802-6
¥880〔税込〕

天気でよみとく名画～フェルメールのち浮世絵、ときどきマンガ～(中公新書ラクレ　810)

長谷部 愛 著
中央公論新社
「悪魔」の正体は局地風(ゴッホ「星月夜」)、描かれた雲から降水確率もわかる(フェルメール「デルフト眺望」)…。古今東西の名画やマンガを「天気」という視点で見直す。

朝日新聞 2025/03/22

2024:2./ 238p
978-4-12-150810-2
¥1,100〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

習近平研究～支配体制と指導者の実像～

鈴木　隆 著

東京大学出版会

長期政権を築いた習近平とは、どのような人物なのか。彼が最高実力者となった軌跡を豊富な資料から渉猟し、中国共産党の支配、中国政治の本質に迫る。これまでに発表した学術論文や雑誌掲載記事などをまとめて書籍化。

朝日新聞 2025/03/22

2025:1./ 656p
978-4-13-030194-7
¥7,700〔税込〕

まぐさ桶の犬(文春文庫　わ 10-7)

若竹 七海 著

文藝春秋

仕事はできるが、不運すぎる女探偵・葉村晶も老眼に悩まされるお年頃。そんな晶に<秘密厳守>の人探しの依頼が舞い込んだ。依頼主は魁星学園元理事長。癖のある関係者たちに翻弄されながら奔走する晶に、謎の影が忍び寄り…。

朝日新聞 2025/03/22

2025:3./ 453p
978-4-16-792341-9
¥1,100〔税込〕

一次元の挿し木(宝島社文庫　このミス大賞 C ま-5-1)

松下 龍之介 著

宝島社

ヒマラヤ山中で、200 年前の人骨が発掘された。大学院で遺伝人類学を学ぶ悠が DNA 鑑定にかけると、4 年前に失踪した妹のものと一致した。不可解な鑑定結果を担当教授に相談しようとした矢先、教授が何者かに殺害され…。

朝日新聞 2025/03/22

2025:2./ 383p
978-4-299-06404-2
¥899〔税込〕

出逢った日本語・50 万語～辞書作り三代の軌跡～(ちくま文庫　ま 48-1)

松井　栄一 著

筑摩書房

親子三代にわたって国語辞典編纂に関わり、自らも「日本国語大辞典」編集委員を務めた著者が、辞書作りの難しさ、用例採集の大切さなどを語り、日本語の規範となり得る理想の国語辞典の在り方について考察を巡らせる。

朝日新聞 2025/03/22

2013:8./ 288p
978-4-480-43090-8
¥946〔税込〕

銃と助手席の歌(創元推理文庫 M ス 18-1)

エマ・スタイルズ 著

東京創元社

高校を退学した少女チャーリーは、金の延べ棒を盗んだことで姉の恋人と争い、彼を殺してしまう。現場に居合わせた大学生ナオと、死んだ男の車でハイウェイを走り出し…。正反対の性格で、帰る家なき少女たちの共闘を描く。

朝日新聞 2025/03/22

2025:2./ 450p
978-4-488-20310-8
¥1,430〔税込〕

厨房から見たロシア～包丁と鍋とおたまで帝国を築く方法～

ヴィトルト・シャブウォフスキ 著
白水社
皇帝一家と運命を共にした料理人から、レーニンの料理人、サナトリウムの料理人だったプーチン大統領の祖父まで。旧ソ連諸国を縦横に巡り、「食」の観点からロシアを多面的に読み解く。各章に料理レシピも収録。

朝日新聞 2025/03/22

2025:3./ 432p
978-4-560-09136-4
¥4,180〔税込〕

洞窟ばか～すきあらば、前人未踏の洞窟探検～(扶桑社新書 375)

吉田勝次 著
扶桑社
ときに 10 日間以上洞窟に入りっぱなしのことも。何度死にかけても、暗闇の先にある誰も見たことのない世界がどうしても見てみたい! 洞窟探検家が自身の半生を振り返りながら、洞窟愛を綴る。ラオス探検の続きも収録。

朝日新聞 2025/03/22

2021:4./ 270p 図版 16p
978-4-594-08796-8
¥968〔税込〕

オタク文化とフェミニズム

田中東子 著
青土社
金銭と時間の投資、心身の過剰な労働、性的消費との葛藤…。喜びと苦しさとが入り混じる女性オタク文化の実践をすくい取りながら、「推し活」社会の現在地を描きだす。

朝日新聞 2025/03/22

2024:9./ 245p
978-4-7917-7674-0
¥2,420〔税込〕

木曜生まれの子どもたち<上>(岩波少年文庫　630)

ルーマー・ゴッデン 著
岩波書店
バレリーナをめざす少女クリスタルは、美しく才能にめぐまれている。でも舞台で賞賛されるのは、弟のドゥーンばかり。自意識に葛藤する姉と、孤独をかかえながら才能にみちびかれる弟。2 人はそれぞれの困難にぶつかり…。

朝日新聞 2025/03/29

2025:1./ 340p
978-4-00-114630-1
¥968〔税込〕

木曜生まれの子どもたち<下>(岩波少年文庫　631)

ルーマー・ゴッデン 著
岩波書店
姉クリスタルに続き、王立バレエ学校<クィーンズ・チェイス>に入学したドゥーン。夢に見たバレエの園で、さっそく子役に抜擢される。悔しさを隠せないクリスタルは、ドゥーンの活躍を阻止しようとするが…。

朝日新聞 2025/03/29

2025:1./ 279p
978-4-00-114631-8
¥913〔税込〕

ビジネスと人権～人を大切にしない社会を変える～(岩波新書　新赤版 2052)

伊藤 和子 著
岩波書店
人権というレンズで企業活動を改めて見直すと問題が山積している。私たち一人一人が国連のビジネスと人権に関する指導原則を知り、企業による人権侵害が横行する社会を変えていくための一冊。

朝日新聞 2025/03/29

2025:2./ 270p
978-4-00-432052-4
¥1,100〔税込〕

苦しい時は電話して(講談社現代新書　2581)

坂口 恭平 著
講談社
死にたいほどつらい時、人は何をしたらよいのか? 躁鬱病を患う著者が、「死にたい人」からの電話を 10 年受け続けてわかったことを綴るとともに、死にたいと感じたときの対処の仕方を考える。

朝日新聞 2025/03/29

2020:8./ 206p
978-4-06-520776-5
¥880〔税込〕

躁鬱大学～気分の波で悩んでいるのは、あなただけではありません～(新潮文庫　さ-87-2)

坂口 恭平 著
新潮社
「居心地悪いなぁ」と感じたらすぐ立ち去る、人の意見で行動を変えない…。躁鬱病と診断され、気分の浮き沈みの激しさに苦しんでいた著者がみつけた、誰でもできるラクに愉快に生きる技術を紹介する。

朝日新聞 2025/03/29

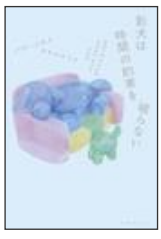
2023:11./ 295p
978-4-10-120752-0
¥693〔税込〕

羊式型人間模擬機

犬怪　寅日子 著
早川書房
男性が死の間際に「御羊」に変身する一族に仕える「わたくし」は、その肉を捌き血族に食べさせることを生業としている。ついに当代の大旦那様が御羊になった日、「わたくし」は儀式の準備を始めるが…。

朝日新聞 2025/03/29

2025:1./ 167p
978-4-15-210394-9
¥1,760〔税込〕



影犬は時間の約束を破らない

パク・ソルメ 著
河出書房新社
ソウル、釜山、沖縄、旭川。治療としての<冬眠>が普及した世界の、眠る者と見守る者。やがて犬たちが、人々を外へと導き…。未踏の文学を切り開く作家による、世界とはぐれた心を結び直す冬眠小説集。

朝日新聞 2025/03/29

2025:2./ 198p
978-4-309-20919-7
¥2,640〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

隣の国の人々と出会う～韓国語と日本語のあいだ～(あいだで考える)

斎藤 真理子 著

創元社

韓国語と日本語のあいだに立つと何が見えるか。韓国語(朝鮮語)を学び始めた背景、この言語の魅力、痛みの連続である現代史と文学の役割、在日コリアンと言語のかかわりなどを、韓国文学の翻訳者が親しみやすく語る。

朝日新聞 2025/03/29

2024:8./ 157p
978-4-422-93118-0
¥1,540〔税込〕

反中絶の極右たち～なぜ女性の自由に恐怖するのか～

シャン・ノリス 著

明石書店

極右の中で白人の滅亡への恐怖は、女性の中絶を阻む意志へと直結している。超富裕層の資金を得てアメリカ政治で主流化し、欧州でも覇権を握りつつあるファシズムの最深部を、気鋭のフェミニスト・ジャーナリストが追う。

朝日新聞 2025/03/29

2025:1./ 325p
978-4-7503-5862-8
¥2,970〔税込〕

なぜ心はこんなに脆いのか～不安や抑うつの進化心理学～

ランドルフ・M.ネシー 著

草思社

私たちを苦しめるつらい気持ちや不安は、なぜ進化の過程で淘汰されなかったのか。これらを引き起こすメカニズムを進化心理学の観点から解き明かし、心が傷つきやすい本当の理由に迫る。

朝日新聞 2025/03/29

2021:9./ 528p
978-4-7942-2534-4
¥3,300〔税込〕

ここは、ようかいチビッコえん～ヒュードロ・タウンのようかいたち～(日本傑作絵本シリーズ)

富安陽子 著

福音館書店

ヒュードロ・タウン3丁目の「ようかいチビッコえん」にやってくる元気な妖怪の子どもたち。みんなでお部屋あそびをしたり、おさんぽに出かけたり…。妖怪チビッコたちの一日を描いた、楽しい絵本。

朝日新聞 2025/03/29

2025:2./ 31p
978-4-8340-8835-9
¥1,320〔税込〕

酒場とコロナ～あのとき酒場に何が起きたのか～

大竹聡 著

本の雑誌社

壁に貼るメニューの札を全部書き直した、営業しているときと同じ時間に毎日出勤した…。コロナに翻弄された酒場で聞いた生の声と風貌の記録。『dancyu WEB』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

朝日新聞 2025/03/29

2025:3./ 318p
978-4-86011-497-8
¥2,200〔税込〕

アンビバレント・ヒップホップ(ゲンロン叢書　016)

吉田 雅史 著
ゲンロン
ヒップホップとは何か。日本語ラップはどのような「リアリティ」を持ちうるのか。四半世紀にわたりヒップホップと向かい合ってきたビートメイカー・吉田雅史が送る、日本=ラップ論。『ゲンロン β』連載を元に書籍化。

朝日新聞 2025/03/29

2025:3./ 424p
978-4-907188-58-0
¥3,300〔税込〕

ハリネズミ・モンテカルロ食人記・森の中の林

鄭 執（ジョン・ジー／てい・しつ／Zheng Zhi） 著
アストラハウス
北京へ、ニースへ、降りしきる雪の中へ、そして日本の桜の下へ。中国東北部の中核都市である故郷・瀋陽の街から、あるいは鬱々と・あるいは劇的に・あるいは飄々と逃奔する青年を主人公とする、3 つの物語を収録。

朝日新聞 2025/03/29

2024:10./ 298p
978-4-908184-52-9
¥2,420〔税込〕

資本主義リアリズム～「この道しかない」のか?～

マーク・フィッシャー、河南瑠莉 著
堀之内出版
資本主義の終わりより、世界の終わりを想像するほうがたやすい-。ポップカルチャーと社会に鋭い光をあて、ヨーロッパで熱狂的な注目を浴びたイギリスの批評家、マーク・フィッシャーの主著を翻訳。

朝日新聞 2025/03/29

2018:2./ 208p
978-4-909237-35-4
¥2,200〔税込〕

わが人生の幽霊たち～うつ病、憑在論、失われた未来～(ele - king books)

マーク・フィッシャー 著
Ｐヴァイン
イギリスの気鋭の現代思想家が著した文化論。2005 年から 2014 年までに書いた、音楽や映画、小説などについての文章や、インタヴュー記事などを、うつ病、憑在論、失われた未来という 3 つのキーワードをもとに編纂。

朝日新聞 2025/03/29

2019:2./ 381p
978-4-909483-18-8
¥3,190〔税込〕

王将の前で待つてて～句集～

川上 弘美 著
集英社
フォボスダイモスしたがへ火星凍ててをり 永遠は青蛙にでもくれてやらう 終電にゲーム音ある霜夜かな 二度数へ紙幣渡すや傘雨の忌 2010～2023 年の 220 句を収録した第 2 句集。

朝日新聞 2025/03/30

2024:12./ 197p
978-4-08-775471-1
¥2,145〔税込〕

お城の値打ち(新潮新書　1069)

香原 斗志 著
新潮社
近年の「城ブーム」のおかげで、全国各地で名所・史跡として人気を集める城の数々。だが日本に本物の城は 12 しかない!? ではあなたの故郷のお城は…? 文化財、史跡としての城の値打ちと、その歴史と未来を問う。

東京・中日新聞 2025/03/01

2024:12./ 222p
978-4-10-611069-6
¥990〔税込〕

極私的映画論(論創ノンフィクション 059)

森達也 著
論創社
大島渚だから撮れた死刑ブラックコメディー「絞死刑」、「翔んで埼玉」が痛快な理由、戦闘なき戦争映画「兵隊やくざ」の反逆精神…。気鋭の映画監督による 100 本の映画批評。『ニューズウィーク日本版』連載を加筆・修正。

東京・中日新聞 2025/03/02

2025:2./ 301p
978-4-8460-2391-1
¥1,980〔税込〕

一〇の国旗の下で～満洲に生きたラトヴィア人～

エドガルス・カッタイス 著
作品社
ラトヴィア人の著者が、東清鉄道の機関車技師の父のもと満洲に生まれ、ハルビンで育ち進学して中国語と日本語を習得し、両言語を駆使して激動の時代を生き抜いた半生を、さまざまなエピソードとともに綴る。

東京・中日新聞 2025/03/02

2024:11./ 285p
978-4-86793-057-1
¥3,190〔税込〕

遊びと利他(集英社新書 1239)

北村 匡平 著
集英社
安全性を理由に撤去される遊具が増え、年齢や利用回数の制限も定着しはじめている「公園」。この状況に抗うには「利他」と「場所作り」にあると語る著者が、他者への想像力を養う社会の在り方を考える。

東京・中日新聞 2025/03/02、読売新聞 2025/03/02

2024:11./ 333p
978-4-08-721339-3
¥1,265〔税込〕

虚傳集

奥泉 光 著
講談社
虚も語れば実となる-。出奔した天才仏師の数奇な生涯を描く「寶井俊慶」、幕末の世に将棋で結ばれた若者 2 人の友情と運命を描く「桂跳ね」など全 5 編を収録する、偽書歴史小説集。『新潮』『文學界』など掲載を単行本化。

東京・中日新聞 2025/03/08

2025:1./ 241p
978-4-06-538142-7
¥1,980〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

死んだら永遠に休めます

遠坂八重 著
朝日新聞出版
パワハラ上司・前川が、失踪宣言と共に突然姿を消した。「私は殺されました」と書かれたメールが届き、そこには容疑者として総務経理本部全員の名前が。前川に苦しめられてきた限界会社員・青瀬は真相解明に取り組むが…。

東京・中日新聞 2025/03/08、産経新聞 2025/03/23

2025:2./ 346p
978-4-02-252017-3
¥1,870〔税込〕

産む気もないのに生理かよ!

月岡ツキ 著
飛鳥新社
どうして産みたいと思えないのか、どうして産みたくないと言い切れないのか。自分の身体、自分を産んだ母、母になった友達、生きてきた世界、いま生きている社会。さまざまな側面から「産む産まない問題」を綴る。

東京・中日新聞 2025/03/09

2024:12./ 239p
978-4-86801-046-3
¥1,760〔税込〕

成田の乱～戸村一作の 13 年戦争～

牧　久 著
日経ＢＰ社
空港建設をめぐる「成田闘争」は、クリスチャン・戸村一作を闘争のシンボルとした農民たちと、彼らへの支援に集結した過激派各派の、日本政府に対する「反乱」-。「戦後最大の反乱」の全貌を明らかにする。

東京・中日新聞 2025/03/09、日本経済新聞 2025/03/22

2025:1./ 349p
978-4-296-12181-6
¥2,640〔税込〕

国境廃絶論～入管化する社会と希望の方法～

グレイシー・メイ・ブラッドリー、ルーク・デ・ノローニャ 著
岩波書店
私たちを脅かす国境という脅威。自由に移動する世界はいかにして可能か。人権をはじめ 7 つの観点から入管政策がもたらす被害を検証し、監獄廃絶運動から受け継いだヴィジョンにより国境「廃絶」への道筋を示す。

東京・中日新聞 2025/03/15

2025:1./ 254p
978-4-00-022983-8
¥2,860〔税込〕

一億年のテレスコープ

春暮　康一 著
早川書房
鮎沢望は、太陽系規模の電波望遠鏡を実現するための、独自の超長基線電波干渉計ネットワークのアイデアを夢想し、夢を共有する仲間を得た。それは人類が銀河文明の繁栄に貢献する路へと繋がっていく、小さな一歩であった…。

東京・中日新聞 2025/03/15

2024:8./ 423p
978-4-15-210358-1
¥2,420〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

松の露～宝暦郡上一揆異聞～

諏訪　宗篤 著

早川書房

浪人の奥津慶四郎が訪れた郡上領では村民たちが貧苦にあえいでいた。領主の金森頼錦こそが重税を強いる元凶と見極め、村民たちは江戸へ訴え出る決意をする。村を代表する偉丈夫の惣次郎は慶四郎に同道を頼み込むが…。

東京・中日新聞 2025/03/15

2025:2./ 265p
978-4-15-210404-5
¥2,530〔税込〕

奏で手のヌフレツン

酉島 伝法 著

河出書房新社

人々は散在する 8 つの聚落で生活し、世界を 5 つの太陽が絶え間なく巡っていた。太陽に抗った聚落の子孫ヌフレツンは、運命に導かれてバイオリンの奏で手を目指す。迫る太陽消失。響け、祖先の遺した禁忌の音-。

東京・中日新聞 2025/03/15

2023:12./ 501p
978-4-309-03158-3
¥2,640〔税込〕

忠臣蔵の四季

古井戸　秀夫 著

白水社

春は塩治判官の「刃傷」から「城明渡し」まで、冬は大星由良之助の出立から「討入」まで。春に始まり冬に終わる名作「忠臣蔵」の魅力を、「季節」を切り口に、視覚的・重層的に人物たちの姿と共に浮かび上がらせる。

東京・中日新聞 2025/03/16

2024:12./ 304p
978-4-560-09140-1
¥4,290〔税込〕

わたしたちの中絶～38 の異なる経験～

石原　燃／大橋　由香子 著

明石書店

産む・産まない・産めないを、国家や医療、他者が管理しようとするこの世界。日本における中絶の歴史を振り返り、当事者の声と、支援者や研究者、取材者などの立場で様々な中絶を見聞きした人たちの声を収録。

東京・中日新聞 2025/03/16

2024:12./ 401p
978-4-7503-5859-8
¥2,970〔税込〕

恋忘れ草　新装版(文春文庫　き 16-12)

北原 亞以子 著

文藝春秋

女流絵師・歌川芳花の元に、「江戸名所百景」の大仕事が持ち込まれる。彼女は想いを寄せる彫師と生写しに出かけたいが、その男には女房と子供がいて…。表題作など、江戸の町で逞しく生きる 6 人の女たちを描く連作短篇集。

東京・中日新聞 2025/03/22

2023:3./ 249p
978-4-16-792012-8
¥792〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

見えなくても王手

佐川　光晴 著
実業之日本社
盲学校に通う小学 4 年生の及川正彦は、新任の先生から将棋を教わり、その面白さにすっかりのめりこむ。将棋を指す喜びを知り、それぞれに成長を遂げてゆく小学生たちとその家族、教員たちの群像劇。

東京・中日新聞 2025/03/22

2025:1./ 211p
978-4-408-53873-0
¥1,980〔税込〕

図書館を建てる、図書館で暮らす～本のための家づくり～

橋本 麻里／山本 貴光 著
新潮社
約 5 万冊の蔵書を収める家<森の図書館>。2 人の施主が、普請のプロセスや、そこで過ごす中で考えた事を綴り、デジタルだけでは実現できない、「本のある空間」の効用を探る。書架写真、建築家・三井嶺の寄稿、図面等も収録。

東京・中日新聞 2025/03/23

2024:12./ 240p
978-4-10-355991-7
¥3,630〔税込〕

労働廃絶論

ボブ・ブラック 著
まとも書房
世界一誤解されているテキスト(?)であるボブ・ブラック『労働廃絶論』が分かりやすい現代語訳に!理解を助ける解説文とセットで!難解な哲学書ではなく、労働のない新しい時代を切り開く希望の書!

東京・中日新聞 2025/03/23

2024:12./ 112p
978-4-9913534-1-3
¥1,100〔税込〕

広東語の世界～香港、華南が育んだグローバル中国語～(中公新書　2808)

飯田 真紀 著
中央公論新社
香港人の母語にして世界で 8000 万人が話す「中国語」である広東語。食や映画を手がかりに、文法・会話、香港社会、華人社会、漢字、十大方言を一望し、広東語の世界を探訪。中国語とは何かを問い直す。

東京・中日新聞 2025/03/29

2024:6./ 264p
978-4-12-102808-2
¥990〔税込〕

桃中図～自選短篇集～

宮城谷 昌光 著
文藝春秋
生きること、生かされること。そのせつなさ、不思議さが、よみがえる…。宮城谷昌光が傘寿を迎えて、自ら選んだ中国歴史小説集。単行本・文庫未収録作「宋門の雨」を含む全 8 作を収録。

東京・中日新聞 2025/03/29

2025:2./ 439p
978-4-16-391945-4
¥2,640〔税込〕

政策の哲学(集英社シリーズ・コモン)

中野 剛志 著

集英社

世界経済が停滞し、国家政策が機能していない理由は、政策の世界で覇権を握る主流派経済学の似非科学的なドグマにある。哲学なき経済学はどこで何を間違えたのか。異能の官僚が「公共政策の実在的理論」を展開する。

東京・中日新聞 2025/03/30

2025:1./ 350p
978-4-08-737007-2
¥1,980〔税込〕

終戦と近衛上奏文～アジア・太平洋戦争と共産主義陰謀説～　増補新版

新谷 卓 著

彩流社

昭和 20 年 2 月 14 日、近衛文麿が天皇に上奏した「近衛上奏文」。多くの謎を含む上奏文の真相と、近衛が戦中「共産主義陰謀説」に傾倒していった過程を詳細に読み解く。現代の「陰謀説」についての論考を加えた増補新版。

東京・中日新聞 2025/03/30

2025:1./ 464p
978-4-7791-2989-6
¥4,950〔税込〕

数字じゃ、野球はわからない(朝日新書　983)

工藤公康 著

朝日新聞出版

昭和から令和、野球はどこまで進化したのか? 「優勝請負人」工藤公康が、データと最新理論にとらわれた野球界を総点検! さらに自身の経験をもとに、いつまでも色あせない“野球の魔力”も紹介する。

読売新聞 2025/03/02

2025:1./ 220p
978-4-02-295298-1
¥957〔税込〕

タッグ(角川文庫　お 95-5)

小野寺　史宜 著

KADOKAWA

プロレス界で活躍していた戸部栄純だが、最愛の妻・美鶴が急逝。2 人の子どもを育てるため、引退し居酒屋を始めて 10 年。大学入学、就活、親しい人との別れ。それぞれの契機に「これから」を共に生きる相手を見つけていき…。

読売新聞 2025/03/02

2024:12./ 301p
978-4-04-115021-4
¥858〔税込〕

タダキ君、勉強してる?(集英社文庫　い 35-13)

伊集院 静 著

集英社

通信簿オール 1 のタダキ少年は、いかにして“伊集院静”となったのか。故郷の師、色川武大、高倉健、武豊、そして両親。折々に大切なことを教えてくれた 30 人との出会いを綴った、人生の指南書ともいえるエッセイ集。

読売新聞 2025/03/02

2025:1./ 285p
978-4-08-744733-0
¥748〔税込〕

至高の近代建築～明治・大正・昭和 人と建物の物語～(新潮新書　1078)

小川 格 著
新潮社
日本の近代建築は何を目指し、どのように建てられ、そして現代へと受け継がれてきたのか。東京駅、国会議事堂など現存する<前期>近代建築の傑作を、関わった人々のドラマを写真とともに紹介。『てんとう虫』掲載等を書籍化。

読売新聞 2025/03/02

2025:2./ 205p
978-4-10-611078-8
¥968〔税込〕

ルポ国威発揚～「再プロパガンダ化」する世界を歩く～

辻田真佐憲 著
中央公論新社
愛国心を煽るプロパガンダの現場を求め、北海道から沖縄までの日本各地、さらにアメリカ、インド、ドイツ、フィリピンなど各国を徹底取材。SNS 時代の「新しい愛国」の正体に迫る。『文學界』連載を書籍化。

読売新聞 2025/03/02

2024:12./ 392p
978-4-12-005861-5
¥2,640〔税込〕

戦後日本の貧困と社会保障～社会調査データの復元からみる家族～

相澤　真一、渡邉　大輔、石島　健太郎、佐藤　香 編
東京大学出版会
戦後日本の貧困の実態、その貧困から脱出する方法の模索-。半世紀以上前の社会調査の個票をデジタル復元し、その統計分析と各種史資料とを検討することにより、戦後期日本社会の世帯・家族と福祉の実像を再構成する。

読売新聞 2025/03/02

2024:12./ 324p
978-4-13-051149-0
¥6,380〔税込〕

海の変な生き物が教えてくれたこと(光文社新書　1342)

清水浩史 著
光文社
外見なんて気にするな、内面さえも気にするな! 水中観察 30 年の海と島の達人が、オコゼ、コバンザメ、カイメンなど「地味で一癖ある」「厄介者」なのになぜか惹かれる 10 の生き物を厳選し、カラー写真とともに紹介する。

読売新聞 2025/03/02

2024:12./ 268p
978-4-334-10511-2
¥1,386〔税込〕

ゴッホ麦畑の秘密(筑摩選書　0295)

吉屋 敬 著
筑摩書房
耳切りやピストル自殺により、狂気の画家とも言われるゴッホ。だが発作が起きていない時は知的かつ冷静であった。ゴッホの知られざる人間像と画業の真実に、美術史家・画家である著者ならではの視点で新しい光を当てた評伝。

読売新聞 2025/03/02

2025:1./ 301p
978-4-480-01812-0
¥2,200〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

スケープゴート(創元推理文庫 M テ 6-6)

ダフネ・デュ・モーリア 著

東京創元社

人生に絶望していた英国人ジョンは、フランスで出会った自分と瓜ふたつの男ジョンと入れ替わる。連れて行かれた相手の家では、経営する工場は経営が危うく、家族間はぎくしゃくしていて…。サスペンス。

読売新聞 2025/03/02

2025:1./ 558p
978-4-488-20607-9
¥1,606〔税込〕

父、松本竣介

松本莞 著

みすず書房

耳の聞こえないハンディキャップを克服し、人生に敢然と立ち向かった夭折の画家・松本竣介。その生涯を、これまでの調査・研究や残された多数の資料を基に、家族に伝わる逸話や思い出を織り交ぜながら丹念に辿る。

読売新聞 2025/03/02

2025:1./ 365p 図版16p
978-4-622-09753-2
¥4,400〔税込〕

読書アンケート～識者が選んだ、この一年の本～<2024>

みすず書房 編

みすず書房

加藤尚武(ヘーゲル研究)、奥山淳志(写真家)、廣野由美子(英文学)、斎藤真理子(韓国語翻訳者)…。152 人の有識者が、新刊・既刊を問わず、2024 年中に読んだ本の中から印象深かったものを取り上げて解説する。

読売新聞 2025/03/02

2025:2./ 180p
978-4-622-09759-4
¥880〔税込〕

文士が、好きだーっ!!～或る書店主の文学偏愛ノオト～

坂上友紀 著

晶文社

井伏鱒二は“かわいい系”、室生犀星は“乙女子”、堀辰雄は“実は骨太”、そして神西清の知られざる“やさしさ”?! 読めば文士たちが綺羅星のごとく光り出す、前人未到の文学案内。『あさひてらす』連載に加筆・修正。

読売新聞 2025/03/02

2025:2./ 295p
978-4-7949-7455-6
¥1,870〔税込〕

戦国家法の形成と公界～『結城氏新法度』と『相良氏法度』を読む～

安野 眞幸 著

名古屋大学出版会

君臣関係、軍事、賞罰、課役、契約など、多様な規定を含む家法。そこに現れる公界とは何か。当主の支配確立から、武士・百姓・下人のあり様、商人との関係まで、法文の精緻な読解により、戦国大名の領国経営を捉え直す。

読売新聞 2025/03/02

2024:12./ 576p
978-4-8158-1177-8
¥13,200〔税込〕

聖書　中型ハンディバイブル～新共同訳 旧約続編つき～<NI34DCH>

日本聖書協会

世界のベスト&ロングセラー『聖書』の、21 世紀日本での定番が「新共同訳」です。こちらは、旧約聖書続編つきです。※該当商品は日本語に翻訳されたものになります。

読売新聞 2025/03/02

1996:1./ 1226p
978-4-8202-1202-7
¥3,850〔税込〕

建築家・坂茂スケッチ集

坂　茂 著

光村推古書院

建築界のノーベル賞ともいわれるプリツカー賞を 2014 年に受賞した建築家・坂茂のスケッチ集。紙のカテドラル、大分県立美術館、豊田市博物館…。長年、コピー用紙の裏紙などに書き溜めたスケッチから一部を選んで編集。

読売新聞 2025/03/02

2024:12./ 431p
978-4-8381-0627-1
¥2,750〔税込〕

酒を主食とする人々～エチオピアの科学的秘境を旅する～

高野 秀行 著

本の雑誌社

クレイジージャーニーがたどり着いたのは、科学の常識を遙かに超えた村だった! 酒を主食とし、一日中酒を飲む民族を探訪するディープアフリカ紀行。

読売新聞 2025/03/02、日本経済新聞 2025/03/08、東京・中日新聞 2025/03/30

2025:1./ 275p
978-4-86011-495-4
¥1,980〔税込〕

絵本戦争～禁書されるアメリカの未来～

堂本 かおる 著

太田出版

「古き良きアメリカ」を取り戻すべく、保守派の人々がさまざまなマイノリティを描いた絵本を禁書してまわっている。アメリカはどうなってしまうのか。NY 在住ライターが、禁書となった絵本を通してアメリカの未来を描き出す。

読売新聞 2025/03/02、日本経済新聞 2025/03/22

2025:1./ 194p
978-4-7783-4011-7
¥2,970〔税込〕

死ぬまでに行きたい海(新潮文庫　き-52-1)

岸本 佐知子 著

新潮社

焚火の思い出、猫の行方、魅かれる山…。出不精を自認する著者が、それでも気になるあれこれに誘われ、気の向くままに出かけて綴った、新しくてどこか懐かしい見聞録。全 22 篇を収録する。

読売新聞 2025/03/09

2025:2./ 213p
978-4-10-105641-8
¥935〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

愛のようだ(中公文庫　な 74-2)

長嶋 有 著

中央公論新社

40 歳にして免許を取得した戸倉は、友人須崎、その恋人琴美の 3 人で、伊勢神宮へドライブへ出かけた。そして、大切なことに気付く瞬間が訪れて-。愛しさと哀しみを鮮明に描いた恋愛小説。

読売新聞 2025/03/09

2020:3./ 231p
978-4-12-206856-8
¥704〔税込〕

能登早春紀行(中公文庫　も 36-1)

森崎和江 著

中央公論新社

旅のなかで出会ったのは、話したがりでやさしい人々と、土地が持つ豊かな歴史。能登はやさしい土地だった-。1980 年代の石川県・能登をめぐる表題作と「津軽海峡を越えて」を収録。光あふれる旅行記。

読売新聞 2025/03/09

2025:1./ 315p
978-4-12-207610-5
¥1,056〔税込〕

イスラームからつなぐ<5> 権力とネットワーク

近藤　信彰 編

東京大学出版会

世界の分断と対立を乗り越えるために、コネクティビティ(つながり)と信頼を鍵として、イスラーム文明の知を可視化する。5 は、権力関係が信頼構築で生まれたネットワークとどうかかわるか、多様な地域を歴史のなかで論じる。

読売新聞 2025/03/09

2025:1./ 264p
978-4-13-034355-8
¥5,500〔税込〕

物価を考える～デフレの謎、インフレの謎～

渡辺努 著

日経ＢＰ社

なぜ日本だけデフレは慢性化したのか? 慢性デフレはなぜ突然終わり、インフレが始まったのか? 謎に包まれた日本のデフレとインフレ。物価研究の第一人者が最先端の理論・データ分析をもとに、日本経済の謎を読み解く。

読売新聞 2025/03/09

2024:11./ 397p
978-4-296-12090-1
¥1,980〔税込〕

近現代詩(河出文庫　古典新訳コレクション　い 35-4 32)

池澤 夏樹 編

河出書房新社

食わずには生きてゆけない。メシを 野菜を 肉を 空気を 光を 水を 親を きょうだいを 師を 金もこころも(石垣りん「くらし」より) 池澤夏樹が近現代の名詩 75 篇をセレクト。詩との新たな出会いをあなたに贈る。

読売新聞 2025/03/09

2025:2./ 376p
978-4-309-42159-9
¥990〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ヤギの睾丸を移植した男～アメリカで最も危険な詐欺師ブリンクリーの天才人生～

ポープ・ブロック 著
国書刊行会
ヤギの睾丸を人間に移植する治療で、一躍時代の寵児となった偽医師、ジョン・ブリンクリー。全米有数のメディア王となった彼はついに政界へと挑戦する。詐欺師の驚くべき人生とアメリカの社会を描くノンフィクション。

読売新聞 2025/03/09

2025:1./ 430p
978-4-336-07677-9
¥3,190〔税込〕

宮脇綾子の芸術～見た、切った、貼った～

東京ステーションギャラリー 編
平凡社
手芸の一分野にすぎなかったアプリケの可能性を、無限大に拡張した造形作家・宮脇綾子の作品を、「素材を活かす」「模様で遊ぶ」といったテーマごとに紹介する。2025 年 1～3 月開催の展覧会公式図録。

読売新聞 2025/03/09

2025:1./ 221p
978-4-582-20739-2
¥3,300〔税込〕

ベン・ブラッドリー自伝～『ワシントン・ポスト』を率いた編集主幹～

ベン・ブラッドリー 著
法政大学出版局
ホワイトハウスの嘘を暴きニクソン大統領らを辞任させたウォーターゲート事件を始め、1970 年代の米国史を変えた『ワシントン・ポスト』の編集主幹ベン・ブラッドリーの自伝。20 世紀アメリカジャーナリズムの真髄を示す。

読売新聞 2025/03/09

2025:2./ 556p
978-4-588-61601-3
¥4,950〔税込〕

高浜虚子～余は平凡が好きだ～(ミネルヴァ日本評伝選)

坪内　稔典 著
ミネルヴァ書房
雑誌『ホトトギス』を拠点に俳句を大衆文芸として定着させる一方、写生文・小説の分野でも多彩な活躍を見せた高浜虚子。俳句の詠み手・選者として多大な影響力を有し、小説家・編集者の顔も持った虚子の生き様を軽やかに描く。

読売新聞 2025/03/09

2024:12./ 240p
978-4-623-09862-0
¥2,860〔税込〕

超少子・超高齢社会の日本が未来を開く～医療と宗教のパラダイムシフト～

長谷川 敏彦／鎌田 東二 著
ホーム社
日本の総人口は数十年後に 1 億人を割り、50 歳未満が 40%にまで減少し、多死時代を迎える。そうした超少子・超高齢社会に向けて、医療と宗教の両泰斗が最新未来モデルを提唱する。

読売新聞 2025/03/09

2024:12./ 238p
978-4-8342-5394-8
¥2,200〔税込〕

地方史のつむぎ方～北海道を中心に～

山本 竜也 著
尚学社
地方史を調べ、聞き、書き、発表する方法は? 北海道の地方史の調査・公表に取り組んできた著者が、在野研究者・作家・学芸員・大学教員ら 24 人にインタビューし、彼らの手法を探るとともに、自らの地方史の調査方法を公開。

読売新聞 2025/03/09

2024:1./ 460p
978-4-86031-186-5
¥3,740〔税込〕

町の本屋という物語～定有堂書店の 43 年～

三砂 慶明 編
奈良 敏行 著
作品社
鳥取の定有堂書店は、いかにして地域の文化拠点となり、日本中から本好きや書店員が足を運ぶ「聖地」となっていったのか。名店の店主が折に触れつづった言葉から、その軌跡が立ち現れる。

読売新聞 2025/03/09

2024:3./ 236p
978-4-86793-013-7
¥2,420〔税込〕

芭蕉布物語　改装版

柳　宗悦 著
榕樹書林
読売新聞 2025/03/09

2024:9.
978-4-89805-254-9
¥2,200〔税込〕

仏教は科学なのか～私が仏教徒ではない理由～

エヴァン・トンプソン 著
Ｅｖｏｌｖｉｎｇ
現代の意識の哲学、認知の哲学の領域でもっとも重要な哲学者のひとりによる、仏教モダニズムやマインドフルネス流行に対する挑戦的論考。エナクティブ認知の思想的立場から、瞑想の認知科学研究を問い直す視点を提供する。

読売新聞 2025/03/09

2024:11./ 309p
978-4-908148-27-9
¥2,970〔税込〕

小山さんノート

小山さんノートワークショップ 編
エトセトラブックス
時間の許される限り、私は私自身でありたい-。「小山さん」と呼ばれたホームレス女性が、1991 年から 2004 年までに綴った手記の抜粋と、8 年かけて手記の文字起こしをした女性たちのエッセイを収録する。

読売新聞 2025/03/09

2023:10./ 286p
978-4-909910-19-6
¥2,640〔税込〕

潤日～日本へ大脱出する中国人富裕層を追う～

舛友 雄大 著
東洋経済新報社
湾岸タワマンをキャッシュで爆買い、銀座のど真ん中を一望できる会員制クラブ、ニセコ町を開発…。日本に押し寄せる中国新移民「潤日」とは何者なのか? 知らぬ間に存在感を増す潤日コミュニティの現状を追う。

読売新聞 2025/03/09、産経新聞 2025/03/16

2025:2./ 335p
978-4-492-22424-3
¥1,980〔税込〕

セルフィの死

本谷 有希子 著
新潮社
フォロワー数を増やそうと常に死力を尽くしているミクル。何もかもうまくいかず七転八倒し、あらゆる希望が根絶やしになった時、ついに訪れた、バズりの先に見えた真実とは…。『新潮』掲載を単行本化。

読売新聞 2025/03/09、朝日新聞 2025/03/15

2024:12./ 171p
978-4-10-301775-2
¥1,870〔税込〕

孝経～儒教の歴史二千年の旅～(岩波新書　新赤版 2050)

橋本 秀美 著
岩波書店
古代における経典の誕生と体系化、解釈学の興亡と皇帝によるテキスト編纂、失われた書物をめぐる日中の学問交流、「孝」の教えをめぐるせめぎ合い…。儒教の長い歩みを映しだす「孝経」を解説する。

読売新聞 2025/03/09、毎日新聞 2025/03/29

2025:1./ 244p
978-4-00-432050-0
¥1,056〔税込〕

続審問(岩波文庫　赤 792-3)

J．L．ボルヘス 著
岩波書店
巨匠ボルヘスのエッセイの代表作。時間的にも空間的にも遠く離れた作家や文学作品を途方もない博識と思いも及ばぬ驚異的な連想力で結びつけ、作家をつうじて現れた文学表現の総体もしくは伝統を論じる、巨匠だけがなしうる批評の冒険。

読売新聞 2025/03/16

2009:7./ 406p
978-4-00-327923-6
¥1,056〔税込〕

日本的霊性(岩波文庫　青 323-1)

鈴木　大拙 著
岩波書店
現代仏教哲学の頂点をなす著作であり、著者が到達した境地が遺憾なく示される。日本人の真の宗教意識、日本的霊性は、鎌倉時代に禅と浄土系思想によって初めて明白に顕現し、その霊性的自覚が現在に及ぶと述べる。

読売新聞 2025/03/16

1972:10./ 286p
978-4-00-333231-3
¥924〔税込〕

日本社会の歴史<上>(岩波新書　新赤版 500)

網野　善彦 著

岩波書店

現代の日本・日本国は、いかなる経緯をへて形成されたのか－。周辺諸地域との海を通じた切り離しがたい関係のなかで、列島に展開した地域性豊かな社会と、「国家」とのせめぎあいの歴史を、社会の側からとらえなおす。

読売新聞 2025/03/16

1997:4./ 218p
978-4-00-430500-2
¥924〔税込〕

日本社会の歴史<中>(岩波新書　新赤版 501)

網野　善彦 著

岩波書店

自律的に進展する社会と「国家」とのせめぎあいの前近代史を、社会の側から捉えなおす通史の続編。近畿を中心とした貴族政権日本国－朝廷と、武人勢力によって樹立された東国王権。この 2 つの王権の併存と葛藤の中で展開する活力溢れる列島社会の姿を描く。

読売新聞 2025/03/16

1997:7./ 208p
978-4-00-430501-9
¥880〔税込〕

日本社会の歴史<下>(岩波新書　新赤版 502)

網野　善彦 著

岩波書店

自律的に進展する社会と「国家」とのせめぎあいの前近代史を、社会の側からとらえなおす通史の完結編。下巻は南北朝の動乱から地域小国家が分立する時代を経て、日本国再統一までを叙述し、さらに近代日本の前提とその問題点を提示。

読売新聞 2025/03/16

1997:12./ 188p
978-4-00-430502-6
¥880〔税込〕

金・銀・銅の日本史(岩波新書　新赤版 1085)

村上　隆 著

岩波書店

かつて日本は「金・銀・銅」の豊かな産出量を誇り、採鉱、精・製錬、金属加工の技術は驚くべき高みに達していた。豊富な資料に基づいて古代に始まる「モノづくり」の手わざの跡をたどる。

読売新聞 2025/03/16

2007:7./ 238p
978-4-00-431085-3
¥1,232〔税込〕

信頼と不信の哲学入門(岩波新書　新赤版 2044)

キャサリン・ホーリー 著

岩波書店

カスタマーレビューは信頼してもいいの? 信頼される人・組織になるには何が必要? 哲学者が進化論や経済学の知見を取り入れ、責任をもって引き受ける「コミットメント」という視点から、信頼と不信のメカニズムに鋭く迫る。

読売新聞 2025/03/16

2024:12./ 254p
978-4-00-432044-9
¥1,012〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

バルセロナで豆腐屋になった～定年後の「一身二生」奮闘記～(岩波新書　新赤版 2051)

清水 建宇 著
岩波書店
元朝日新聞の記者が定年後、バルセロナで豆腐店を開業した。修業の日々、異国での苦労と新しい出会い、ヨーロッパから見た日本の姿。ジャーナリストならではの洞察力で、夫婦二人三脚の日々を綴ったエッセイ。

読売新聞 2025/03/16

2025:1./ 254p
978-4-00-432051-7
¥1,056〔税込〕

荷風たちの東京大空襲～作家が目撃した昭和二十年三月十日～

西川 清史 著
講談社
昭和 20 年 3 月 10 日、永井荷風は東京大空襲で自宅が焼け落ちていく様を記している。荷風をはじめ、谷崎潤一郎、向田邦子ら、東京に住んでいた文士たちが日記や文章の中に書き残した、東京大空襲の凄まじい体験を紐解く。

読売新聞 2025/03/16

2025:3./ 349p
978-4-06-539104-4
¥2,090〔税込〕

クアトロ・ラガッツィ～天正少年使節と世界帝国～<上>(集英社文庫)

若桑 みどり 著
集英社
歴史の荒波を生きた四人の少年の軌跡。 世界経済とカトリック教会の世界布教という二つの大きな波が押し寄せた信長・秀吉の時代の日本。怒濤の世界へ船出し、初めてローマを見た天正少年使節とは何だったのか。

読売新聞 2025/03/16

2008:3./ 575p
978-4-08-746274-6
¥1,155〔税込〕

クアトロ・ラガッツィ～天正少年使節と世界帝国～<下>(集英社文庫)

若桑 みどり 著
集英社
ローマへ到着し、その凛々しさで多くの人々に感銘を与えた少年たち。だが彼らを祖国で待っていたのは、禁教の弾圧と虐殺だった。ローマ、ヴァチカン、ゴア、マカオに取材した大仏次郎賞受賞作。

読売新聞 2025/03/16

2008:3./ 503p
978-4-08-746275-3
¥1,155〔税込〕

日本語教師、外国人に日本語を学ぶ(小学館新書　487)

北村 浩子 著
小学館
留学生らへの指導に頭を悩ませる日本語教師が、流暢な日本語を話す外国人 9 名に根掘り葉掘り尋ねると、日本人が気付かない日本語の輪郭が鮮やかになった。日本語に出合い直す中で、言葉を学ぶことの本質に迫る。

読売新聞 2025/03/16

2025:2./ 253p
978-4-09-825487-3
¥1,056〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

生皮 あるセクシャルハラスメントの光景(ビッグ コミックス)

井上 荒野 著

小学館

この痛みが癒えることはない。井上荒野による衝撃的小説を、新鋭・栗森きちが渾身の力でコミカライズ。「今の時代」を貫く物語、第1巻。

読売新聞 2025/03/16

2025:1./ 200p
978-4-09-863143-8
¥770〔税込〕

それでも、日本人は「戦争」を選んだ(新潮文庫 か-77-1)

加藤 陽子 著

新潮社

普通のよき日本人が、世界最高の頭脳たちが、「もう戦争しかない」と思ったのはなぜか? 日清戦争から太平洋戦争まで、戦争の根源的な特徴、戦争が地域秩序や国家や社会に与えた影響と変化などを、中高生への講義を元に解説。

読売新聞 2025/03/16

2016:7./ 497p
978-4-10-120496-3
¥990〔税込〕

四月のある晴れた朝に 100 パーセントの女の子に出会うことについて

村上 春樹 著

新潮社

世界中の読者に愛され、朗読される表題作と「鏡」。村上春樹自身が初期短編より選び出した2編(「カンガルー日和」所収)の世界を、台湾の人気イラストレーターが繊細に描くピクチャーブック。

読売新聞 2025/03/16

2025:2./ 63p
978-4-10-353438-9
¥1,870〔税込〕

日本人になった祖先たち～DNA が解明する多元的構造～ 新版(NHK ブックス 1255)

篠田 謙一 著

ＮＨＫ出版

日本列島に住む人間は、どこからやってきたのか。朝鮮半島、中国、南方の人々とはどうつながっているのか。分子遺伝学の最新の解析手法を駆使して、「日本列島人」形成のプロセスに迫る。新たな事実を盛り込んだ新版。

読売新聞 2025/03/16

2019:3./ 236p
978-4-14-091255-3
¥1,430〔税込〕

0 から学ぶ「日本史」講義<古代篇>

出口 治明 著

文藝春秋

世界史を題材に数々のベストセラーを生んだ著者が、「世界史の中での日本」を分かりやすく面白く解説する。古代篇は、日本人の起源、統一国家の誕生、日中交流が育んだ平安文化などを収録。『週刊文春』連載を単行本化。

読売新聞 2025/03/16

2018:2./ 261p
978-4-16-390771-0
¥1,540〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

耳鼻削ぎの日本史(文春学藝ライブラリー)

清水 克行 著
文藝春秋
平安時代から戦国期にかけての日本では、刑罰として、また戦功の証明として、耳鼻削ぎが広く行われていた。日本社会のなかの耳鼻削ぎの歴史を追求する。図版と「爪と指」に関する論考を増補し文庫化。

読売新聞 2025/03/16

2019:4./ 272p
978-4-16-813080-9
¥1,540〔税込〕

暗黒のメルヘン　新装版(河出文庫　し 1-29)

澁澤 龍彦 編
河出書房新社
自分の気に入った幻想小説のアンソロジーを、好みのままに花束のように編んでみたい-。泉鏡花、江戸川乱歩、夢野久作から阿部公房、三島由紀夫、倉橋由美子まで、「文学の美食家」が選りすぐった 16 人の珠玉の傑作短篇集。

読売新聞 2025/03/16

2025:3./ 482p
978-4-309-42175-9
¥1,320〔税込〕

ミスター・ミー(創元ライブラリ L ク 1-1)

アンドルー・クルミー 著
東京創元社
書痴老人ミスター・ミーは、幻の「百科全書」の探索に熱中し、ネットの海に乗り出した。「百科全書」とルソーの「告白」に登場する人物、そして裸の女性がネット上でリンクし、パソコン初心者の老人はどこに向かうのか?

読売新聞 2025/03/16

2025:2./ 424p
978-4-488-07091-5
¥1,760〔税込〕

不思議の日米関係史

高坂 正尭 著
ＰＨＰ研究所
読売新聞 2025/03/16

1996:10./ 242p

歩くという哲学～世界を動かした小説、詩、哲学は、歩行によって生まれた～

フレデリック・グロ、谷口　亜沙子 著
山と渓谷社
世界を動かした小説、詩、哲学は歩行によって生まれた。哲学的な瞑想の連続を探索しながら、ギリシア哲学、ドイツ哲学と詩、フランス文学と詩、英文学、現代アメリカ文学等の、著名な文学者、思想家の歩き方について探求する。

読売新聞 2025/03/16

2025:2./ 303p
978-4-635-35002-0
¥2,640〔税込〕

平清盛(人物叢書新装版)

五味　文彦 著
吉川弘文館
読売新聞 2025/03/16

1999:1./ 332p
978-4-642-05212-2
¥2,420〔税込〕

住職たちの経営戦略～近世寺院の苦しい財布事情～(歴史文化ライブラリー 614)

田中　洋平 著

吉川弘文館

収入減と増える借金、檀家との主導権争い、先代住職の老後保障…。経営難に陥る零細寺院の姿を描き、幕府に優遇されたとする江戸時代の仏寺イメージを払拭。寺の存続をかけ、地域を巻き込み展開した住職たちの苦闘に迫る。

読売新聞 2025/03/16

2025:2./ 240p
978-4-642-30614-0
¥1,870〔税込〕

大人をお休みする日

文月 悠光 著

角川春樹事務所

きみに強く手を引かれたとき 夏雲にぐんと近づいた心地がした。屋根を超えて、空に一息で届く。そんな直感に手を握り返して きみという舟に身をゆだねた。(「ふたつの舟」より) 第 5 詩集。『mina』連載他を書籍化。

読売新聞 2025/03/16

2025:2./ 144p
978-4-7584-1475-3
¥1,760〔税込〕

経済成長の日本史～古代から近世の超長期 GDP 推計 730-1874～

高島 正憲 著

名古屋大学出版会

奈良時代から近代初頭にいたる日本列島経済の展開を一望。最貧国水準を抜け出し、1 人あたり GDP が着実な上昇に転じていく過程を、災害・飢饉・環境・都市化なども視野に解明する。

読売新聞 2025/03/16

2017:10./ 348p
978-4-8158-0890-7
¥5,940〔税込〕

南フランス猫と旅する美しい村(私のとっておき 50)

平野 由希子 著

産業編集センター

愛猫クミンとともに、南フランスの村で築 1000 年ともいわれる古民家に滞在した料理家・平野由希子が、豊かな食文化、村人との交流、のびのびと過ごす猫たちの様子を綴る。猫と旅するための Tips も満載。

読売新聞 2025/03/16

2025:2./ 159p
978-4-86311-434-0
¥2,090〔税込〕

他人屋のゆうれい

王谷晶 著

朝日新聞出版

春夫おじさんが営んでいた「他人屋」を求めて、隣人たちが訪ねてくる 404 号室。部屋を勝手に出入りする“幽霊”の正体を追ううちに、一人きりだった大夢にほのかな繋がりができはじめ…。『しんぶん赤旗』連載に加筆修正。

読売新聞 2025/03/16、東京・中日新聞 2025/03/23

2025:1./ 268p
978-4-02-252020-3
¥1,980〔税込〕

OUT<上>(講談社文庫)

桐野 夏生 著

講談社

深夜の弁当工場で働く主婦たちは。それぞれの胸の内に得体の知れない不安と失望を抱えていた。「こんな暮らしから抜け出したい」そう心中で叫ぶ彼女たちの生活を外へ導いたのは、思いもよらぬ事件だった。

読売新聞 2025/03/23

2002:6./ 446p
978-4-06-273447-9
¥924〔税込〕

OUT<下>(講談社文庫)

桐野 夏生 著

講談社

主婦ら 4 人の結束は、友情からだけではなく、負の力によるものだった。その結びつきは容易に解け、バランスを欠いていく。しかし動き出した歯車は止まることなく、ついに第二の死体解体を請け負うはめになる。

読売新聞 2025/03/23

2002:6./ 340p
978-4-06-273448-6
¥792〔税込〕

半沢直樹<1> オレたちバブル入行組(講談社文庫 い 85-15)

池井戸 潤 著

講談社

大阪西支店融資課長を務める半沢直樹。ある時、支店長命令により 5 億円もの融資を行った会社があえなく倒産した。責任をすべて半沢に押し付け、醜い保身に走る上司を横目に、半沢は巨額の債権を回収するすべを探り…。

読売新聞 2025/03/23

2019:11./ 396p
978-4-06-517082-3
¥858〔税込〕

土と生命の 46 億年史～土と進化の謎に迫る～(ブルーバックス　B-2278)

藤井 一至 著

講談社

現代の科学技術をもってしても作れない「生命」と「土」。生命の誕生から動植物の進化と絶滅、人類の繁栄、文明の栄枯盛衰にまで大きく関わってきた土の進化を、46 億年の地球史と生物進化の壮大なストーリーとともに描く。

読売新聞 2025/03/23

2024:12./ 265p
978-4-06-537838-0
¥1,320〔税込〕

女たちのジハード(集英社文庫)

篠田 節子 著

集英社

保険会社に勤める異なるタイプの女性たち。結婚、仕事、生き方に迷い、挫折を経験しながらも、たくましく幸せを求めてゆく。現代 OL 道を生き生きと描く、第 117 回直木賞受賞作。

読売新聞 2025/03/23

2000:1./ 522p
978-4-08-747148-9
¥1,034〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

1Q84～a novel～<BOOK1 前編>　4 月-6 月(新潮文庫　む 5-27)

村上 春樹 著
新潮社
好もうが好むまいが、私は今この「1Q84 年」に身を置いている。私の知っていた 1984 年はもうどこにも存在しない…。ヤナーチェックの「シンフォニエッタ」に導かれ、青豆と天吾の不思議な物語がはじまる。

読売新聞 2025/03/23

2012:4./ 357p
978-4-10-100159-3
¥825〔税込〕

小説 8050(新潮文庫　は-18-15)

林 真理子 著
新潮社
完璧な人生を送っているように見える大澤正樹には秘密がある。彼の長男・翔太は 7 年間も自宅に引きこもっていた。娘が相手家族に結婚を反対されたことから正樹は息子と向き合う決意をするが…。

読売新聞 2025/03/23

2024:5./ 505p
978-4-10-119125-6
¥935〔税込〕

胃が合うふたり(新潮文庫　ち-8-51)

千早 茜／新井 見枝香 著
新潮社
ストリップ鑑賞のおやつから憧れの高級フレンチまで、胃袋のソウルメイトふたりが共に囲んだ 11 の食卓を舞台に、心模様や人生の味わいを鮮やかに描き出したエッセイ集。番外編 50 ページを加え文庫化。

読売新聞 2025/03/23

2025:2./ 281p
978-4-10-120383-6
¥693〔税込〕

アンソーシャルディスタンス(新潮文庫　か-54-5)

金原 ひとみ 著
新潮社
年下彼氏の若さに当てられ、整形へ走る女。彼氏を心中に誘う女。恋人と会えない孤独な日々で、性欲や激辛欲が荒ぶる女-。絶望に溺れ、必死にもがく女性たちを鮮烈に描いた短編集。全 5 編を収録する。

読売新聞 2025/03/23

2024:2./ 362p
978-4-10-131335-1
¥781〔税込〕

空とぶ絨緞(中公文庫　ほ 23-2)

堀内誠一 著
中央公論新社
チュニジアの魚介スープ、台湾の屋台飯、ウクライナの肉団子をたいらげ、国宝の美術品から露店の玩具まで愛し…。旅の思い出が沢山つまったオールカラー旅行記。新たなイラスト・文章を加えて文庫化。

読売新聞 2025/03/23

2025:1./ 315p
978-4-12-207608-2
¥1,430〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

樹影譚(文春文庫)

丸谷 才一 著
文藝春秋
自分でもわからぬ樹木の影への不思議な愛着。現実と幻想の交錯を描く、川端康成文学賞受賞作。これぞ、短篇小説の快楽!「鈍感な青年」「樹影譚」「夢を買ひます」収録。

読売新聞 2025/03/23

1991:7./ 190p
978-4-16-713809-7
¥572〔税込〕

大地の子<1>(文春文庫)

山崎 豊子 著
文芸春秋
日本人戦争孤児で、中国人の教師に養育された陸一心。肉親の情と中国への思いの間で揺れる青年の苦難の旅路を、戦争や文化大革命などの歴史を背景に壮大に描く大河小説。

読売新聞 2025/03/23

1994:1./ 387p
978-4-16-755601-3
¥858〔税込〕

大軍都東京～忘れられた日本の戦争遺跡を訪ねる～

黒田 涼 著
笠間書院
団地は軍需工場、公園は飛行場、緑道は軍用線、オブジェは高射砲台座!? 23 区と多摩地区に今なお残る戦時下東京の痕跡を解説。実際に現地を訪ねられるよう、歩行ルートなども紹介。

読売新聞 2025/03/23

2025:2./ 262p
978-4-305-71034-5
¥2,200〔税込〕

迷彩色の男

安堂 ホセ 著
河出書房新社
男性限定クルージングスポットで 26 歳の男が血まみれで発見される。容疑者候補はあの夜、あの建物、あの扉から逃げた男たち全員であるはずだった-。事件の背後に浮かびあがる“迷彩色の男”を描く。『文藝』掲載を単行本化。

読売新聞 2025/03/23

2023:9./ 163p
978-4-309-03141-5
¥1,760〔税込〕

唐十郎襲来!

唐十郎 著
河出書房新社
時代と状況を問い続けた稀代の演劇人・作家、唐十郎。2024 年 5 月に急逝した彼の軌跡を、縁の人々の証言やエッセイ、蜷川幸雄との対話などから浮かび上がらせる。最期の戯曲「海星」、年表等も収録。

読売新聞 2025/03/23

2024:11./ 223p
978-4-309-25782-2
¥2,640〔税込〕

4 月の本(12 か月の本 4)

西崎憲 編
太宰治／北川冬彦／獅子文六／日夏耿之介／堀辰雄／中井英夫／村山槐多／鏑木清方／渡辺温／吉田健一／T・S・エリオット／尾崎一雄／宮沢賢治／水野葉舟／ロアルド・ダール／ギュスターヴ・カーン／久生十蘭／片山廣子／泉鏡花／山川方夫／坂口安吾 著
国書刊行会
12 か月のうちの<ひと月>をテーマに古今東西の小説・詩歌・随筆を集めたアンソロジー。太宰治「春昼」、中井英夫「牧神の春」、吉田健一「イギリスの春と春の詩」など全 21 篇を収録する。

読売新聞 2025/03/23

2025:3./ 291p
978-4-336-07737-0
¥3,080〔税込〕

なぜ人は自分を責めてしまうのか(ちくま新書　1845)

信田 さよ子 著
筑摩書房
「すべて自分が悪い」と自分の存在を否定することで、世界の合理性を獲得する自責感。当事者の言葉を辞書として、自責感や母と娘、共依存、育児といったものにまつわる問題を考える。オンラインセミナーをもとに書籍化。

読売新聞 2025/03/23

2025:3./ 224p
978-4-480-07674-8
¥968〔税込〕

三つ星の頃(ちくま文庫　の 3-3)

野尻 抱影 著
筑摩書房
星の随筆家として活躍し、太陽系第 9 番惑星に「冥王星」と名付けた野尻抱影が遺した幻の小説集。少年の心を占めるオリオンの光が印象的な表題作をはじめ、「海恋い」「山羊の声」など、自然の息吹を感じる全 11 篇を収録する。

読売新聞 2025/03/23

2025:1./ 207p
978-4-480-44012-9
¥880〔税込〕

ブック・ウォーズ～デジタル革命と本の未来～

ジョン・B･トンプソン 著
みすず書房
電子書籍、オーディオブック、本のサブスク…。デジタル革命が書籍サプライチェーンを破壊して創りかえた歴史を、膨大な統計資料、約 180 件の出版・テック業界関係者インタビューから論じる。

読売新聞 2025/03/23

2025:1./ 704p
978-4-622-09749-5
¥5,940〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

世界ひと皿紀行～料理が映す 24 の物語～

岡根谷実里 著
山と渓谷社
アジア、ヨーロッパ、中南米、オセアニアの国/地域の台所を探検した著者が、「ひと皿」の料理から映し出されるそれぞれの土地の暮らしと社会を綴る。おうちで作れる 10 レシピも掲載。『味の手帖』連載を抜粋、再構成。

読売新聞 2025/03/23

2025:2./ 199p
978-4-635-24130-4
¥2,200〔税込〕

<染織の都>京都の挑戦～革新と伝統～(歴史文化ライブラリー　615)

北野　裕子 著
吉川弘文館
平安時代から多彩な染織品を生み出してきた京都は、近代化の荒波をいかに乗り越え<染織の都>たり得たのか。経営者、技術者・職人、画家たちの挑戦を通して歴史を辿り、「伝統」を形成していく姿を描く。

読売新聞 2025/03/23

2025:2./ 304p
978-4-642-30615-7
¥2,090〔税込〕

20 歳の自分に教えたいアメリカ(SB 新書　679)

池上 彰+「池上 彰のニュースそうだったのか!!」スタッフ 著
ＳＢクリエイティブ
トランプ大統領で世界はどうなる? 日本の安全保障は? 混迷のアメリカを徹底取材し、激変する世界の行方を読み解く。「池上彰のニュースそうだったのか!!」をもとに書籍化。

読売新聞 2025/03/23

2025:1./ 243p
978-4-8156-2718-8
¥1,045〔税込〕

ある地方高校生の日記～一九五〇～一九五三～

秋浜悟史 著
松本工房
劇作家・演出家、演劇教育者として多大な功績を残し、石川啄木を継ぐ才と謳われた岩手県渋民村出身の秋浜悟史が、岩手高校時代に綴った貴重な日記を収録する。いのうえひでのり、古田新太らの寄稿、年譜も掲載。

読売新聞 2025/03/23

2024:11./ 319p
978-4-910067-24-7
¥3,960〔税込〕

子どもの本の森へ(岩波現代文庫　文芸 364)

河合 隼雄、長田 弘 著
岩波書店
読書の達人でもある 2 人の碩学による、子どもの本の「名作」ガイド。子どもの本や絵本の名作・傑作を数多く取り上げつつ、大人が読んでも新たな発見があり、重要な意味があることを明らかにする。

読売新聞 2025/03/30

2025:2./ 230p
978-4-00-602364-5
¥1,166〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

カット・イン/カット・アウト

松井 玲奈 著
集英社
著名な劇作家が主宰する劇団の新作公演初日まで、残り 3 週間。ヒロインに選ばれたアイドル・中野ももは、役作りに難渋していた。そんな彼女の様子を、売れない中年女優は気に掛けるが…。『小説すばる』掲載を加筆修正。

読売新聞 2025/03/30

2025:3./ 252p
978-4-08-771891-1
¥1,870〔税込〕

星に届ける物語～日経「星新一賞」受賞作品集～(新潮文庫　ほ-4-81)

藤崎 慎吾、相川 啓太、佐藤 実、之人 冗悟、八島 游舷、梅津 高重、白川 小六、村上 岳、関元 聡、柚木 理佐 著
新潮社
二酸化炭素排出を抑える夢の技術の行方。宇宙エレベーターが実現した世界で、それでも自力で宇宙を目指す男の孤独な挑戦…。日経「星新一賞」の第 1 回～第 11 回の一般部門グランプリ受賞作を収録する。

読売新聞 2025/03/30

2025:3./ 273p
978-4-10-105861-0
¥693〔税込〕

爆心

青来 有一 著
文芸春秋
私は昭和２０年８月９日１１時２分の白い光の中から現れた–。被爆したその日から「生」が始まった男が過去と行く末に思いをはせる「鳥」ほか、長崎の爆心地周辺で生きる人々を描く連作短篇集。

読売新聞 2025/03/30

2006:11./ 284p
978-4-16-325470-8
¥1,938〔税込〕

追跡

伊岡 瞬 著
文藝春秋
東京都武蔵野市で住宅一棟が焼ける火災が発生。焼け跡から一家 3 人の遺体が見つかり、現場からは子どもが消失。だが彼らは本当の家族ではなかった…。謎が謎を呼ぶノンストップサスペンス。『文藝春秋』連載を単行本化。

読売新聞 2025/03/30

2025:2./ 308p
978-4-16-391944-7
¥1,870〔税込〕

新しい星(文春文庫　あ 82-2)

彩瀬 まる 著
文藝春秋
「普通」の人生を謳歌していたはずの 4 人に訪れる、思いがけない転機。コロナ時代の「普通」に揺れる、ある 4 人の男女のリアル-。愛するものの喪失と再生を描く 8 つの物語。

読売新聞 2025/03/30

2025:3./ 242p
978-4-16-792342-6
¥847〔税込〕

東西南北「方位」の世界史

ジェリー・ブロットン 著
河出書房新社
自分が世界のどこにいるのか。自分は何者なのか-。文明とともに数千年も、方位と自分の位置を関係づけてきた人類。四方位それぞれの歴史と社会・文化・宗教・政治的な意味づけを、国や地域を網羅しながら解き明かす。

読売新聞 2025/03/30

2025:2./ 235p
978-4-309-22954-6
¥2,970〔税込〕

最強の言語化力(祥伝社新書　709)

齋藤 孝 著
祥伝社
言語化力はビジネスパーソンの必須スキル。言語化の本質を明らかにしたうえで、言語化力を磨くトレーニングやその活用法を多数紹介。言葉の持つ力を最大限に活かし、豊かな人生を拓く術を伝授する。

読売新聞 2025/03/30

2025:3./ 225p
978-4-396-11709-2
¥1,034〔税込〕

RPG のつくりかた～橋野桂と『メタファー:リファンタジオ』～

さやわか／アトラス 著
筑摩書房
JRPG を牽引する、「アトラス」所属のゲームクリエイター橋野桂。集大成となる「メタファー:リファンタジオ」ができるまでの軌跡を、7 年にわたる取材で明らかにする。貴重資料も多数収録。

読売新聞 2025/03/30

2025:2./ 537p
978-4-480-81861-4
¥2,640〔税込〕

仮面の奇人三木清

宮永 孝 著
法政大学出版局
戦前期日本哲学界および論壇のスターで、治安維持法下で獄死を強いられた三木清。独仏留学体験からスピノザ論の筆致、マニラでの徴用体験まで、きわめて人間くさい生身の生涯を、戦争の時代背景のうちに跡づける。

読売新聞 2025/03/30

2025:3./ 342p
978-4-588-46026-5
¥3,740〔税込〕

農政トライアングルの誕生～自己組織化する利益誘導構造 1945-1980～

佐々田 博教 著
千倉書房
1960 年代を通じて準備された巨大な権力構造を完成に導いた、農村・農協、自民党、農林省をめぐる「農村の均質化」などの 4 つの条件はなぜ整ったのか。「農政トライアングル」誕生の経緯とその長期的影響を明らかにする。

読売新聞 2025/03/30

2025:2./ 210p
978-4-8051-1342-4
¥5,280〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

モンスーン経済～水と気候からみたインド史～

ティルタンカル・ロイ 著
名古屋大学出版会
インドの地域経済を考察。熱帯のモンスーンにより生じる季節性(季節変動)が経済変化にもたらす影響に着目しながら、南アジアのデカン・トラップに代表される、熱帯の乾燥地域における経済発展の特徴を描く。

読売新聞 2025/03/30

2025:2./ 240p
978-4-8158-1176-1
¥3,960〔税込〕

林京子全集<1> 祭りの場 ギヤマンビードロ

林 京子、井上 ひさし、河野 多恵子、黒古 一夫 著
日本図書センター
長崎での被爆体験と、今も終わらない核の悲劇を語り続ける作家、林京子の全集。第1巻は第18回群像新人文学賞及び第77回芥川賞を受賞した「祭りの場」をはじめ、「被爆体験」を描いた初期の作品を中心に収録。

読売新聞 2025/03/30

2005:6./ 485p

小泉郁子教育論集<第5巻> 戦時下北京からの発信

小泉郁子 著
論創社
桜美林学園の創立者のひとりであり、日本で先駆的に男女共学論を提唱した小泉郁子の教育論集。第5巻は、「新天新地の建設」など、1938年後半～1944年に発表した論説、1960年代に発表した自叙伝、略年譜等を収録。

読売新聞 2025/03/30

2025:3./ 435p
978-4-8460-2251-8
¥4,180〔税込〕

老アブー

ナタリー・ド・クルソン 著
春風社
北フランスの町で一人暮らしをしている老父アブー。旧家の末裔である父、絶対的な家父長として君臨していた父が、今や老いて認知症になっている。この父をどうしたらいいか-。父と子どもたちの関係、老い、介護を巡る物語。

読売新聞 2025/03/30

2024:12./ 217p
978-4-86110-998-0
¥2,750〔税込〕

画を結ぶ～再興第一一〇回院展記念～

青幻舎
長い歴史を持つ日本美術院の美術団体展であり、令和7年9月に第110回を迎える再興院展。明治以降の日本画を牽引してきた院展の同人たちの画業の画期となった出世作と、画家を象徴する代表作を並べて院展の歴史を振り返る。

読売新聞 2025/03/30

2025:3./ 333p
978-4-86152-983-2
¥4,400〔税込〕

戦後日本農政と農業者～組織・動員・忠誠～

川口 航史 著
吉田書店
戦後日本の農業における政治過程の起源を追う。　農協グループの成立と発展から見えるものは何か－

読売新聞 2025/03/30

2025:3./ 224p
978-4-910590-25-7
¥4,180〔税込〕

フランクリン自伝　改版(岩波文庫　赤 301-1)

岩波書店
雷雨中にたこを上げて電気と雷は同じものであることを発見したフランクリン(1706-90)は、科学者であると共に、出版業者、哲学者、経済学者、政治家であり、そして何よりもアメリカ資本主義の育ての親であった。

日本経済新聞 2025/03/01

1957:1./ 372p
978-4-00-323011-4
¥1,155〔税込〕

ピーター・ドラッカー～「マネジメントの父」の実像～(岩波新書　新赤版 2045)

井坂 康志 著
岩波書店
全体主義が台頭し破局へと向かうヨーロッパからアメリカへ渡り、産業社会と企業、そして働く自由な人間に未来を見出したドラッカー。内なる怒りと恐怖と対峙する、「マネジメントの父」の裏側にある実像を描き出す。

日本経済新聞 2025/03/01

2024:12./ 238p
978-4-00-432045-6
¥1,034〔税込〕

ツイン・アース(集英社文庫　こ 36-10)

小森 陽一 著
集英社
オーロラ観測するアイノのもとに届いたメッセージにあったインド洋沖のとある座標。そこに向かった彼女は水の球体に飲み込まれ、別世界へ。そこは地球の双子星だった…。壮大なスケールで展開する書き下ろしエンタメ SF 小説。

日本経済新聞 2025/03/01

2025:1./ 366p
978-4-08-744735-4
¥913〔税込〕

鳩の撃退法<上>(小学館文庫　さ 4-11)

佐藤 正午 著
小学館
かつての売れっ子作家・津田は、古書店を営んでいた老人の形見の鞄を受け取った。中には、数冊の絵本と古本のピーターパン、そして 3 千万円を超える現金が。しかし思いもよらぬ事実が判明し…。

日本経済新聞 2025/03/01

2018:1./ 548p
978-4-09-406486-5
¥869〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

李陵・山月記　改版(新潮文庫)

中島 敦 著
新潮社
日本経済新聞 2025/03/01

2003:12./ 218p
978-4-10-107701-7
¥473〔税込〕

コンスタンティノープルの陥落　改版(新潮文庫)

塩野 七生 著
新潮社
日本経済新聞 2025/03/01

2009:1./ 291p
978-4-10-118103-5
¥693〔税込〕

日本百名山　改版(新潮文庫)

深田 久弥 著
新潮社
日本経済新聞 2025/03/01

2003:4./ 535p
978-4-10-122002-4
¥1,100〔税込〕

アシスタント(新潮文庫)

バーナード・マラマッド 著
新潮社
日本経済新聞 2025/03/01

1990:5./ 374p

木のいのち木のこころ<天>(新潮 OH!文庫)

西岡　常一、塩野　米松 著
新潮社
日本経済新聞 2025/03/01

2001:5./ 174p
978-4-10-290092-5

京都占領～1945 年の真実～(新潮新書　1070)

秋尾 沙戸子 著
新潮社
1945 年敗戦。日本降伏の間際、幾度となく原爆投下の候補地としてリストアップされながら紙一重で悲劇をまぬがれた古都に星条旗が翻った。日本政府・京都市民と米軍の攻防を日米双方の史料と貴重な証言で明らかにする。

日本経済新聞 2025/03/01

2024:12./ 207p
978-4-10-611070-2
¥968〔税込〕

1%の革命～ビジネス・暮らし・民主主義をアップデートする未来戦略～

安野 貴博 著
文藝春秋
東京のアップデート、経済・ビジネスの活性化、これからの医療・防災モデル…。2024 年の東京都知事選で 15 万票を獲得した著者が、各界の最新トレンドを踏まえた、実装可能な未来ビジョンを伝える。

日本経済新聞 2025/03/01

2025:2./ 287p
978-4-16-391939-3
¥1,760〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

選択の科学～コロンビア大学ビジネススクール特別講義～(文春文庫 S13-1)

シーナ・アイエンガー 著

文藝春秋

出身や生い立ちは選択を行う方法に影響を与えるのか? 選択というツールを効果的に使うには? 他人に選択を委ねた方がよい場合はあるのか? 「選択」研究の第一人者が、20 年以上にわたる数々の研究成果や考察をまとめる。

日本経済新聞 2025/03/01

2014:7./ 460p
978-4-16-790155-4
¥1,023〔税込〕

ロシアゲートの闇～現代米国の情報戦を読み解く～

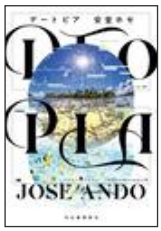
小田健 著

日経ＢＰ社

2016 年の米大統領選挙。トランプ陣営が、ロシアのプーチン政権と共謀していたとの疑惑が浮上し、急展開した。FBI、CIA、メディアを巻き込んだ醜聞の顛末を、膨大な資料を通して明らかにする。

日本経済新聞 2025/03/01

2024:12./ 309p
978-4-296-12164-9
¥3,300〔税込〕



デートピア

安堂 ホセ 著

河出書房新社

舞台は南太平洋の楽園。ひとりの女を巡る、世界各国 10 人の男たちの争奪戦。恋愛リアリティショー「DTOPIA」の視聴者たちは、やがて「自分だけの DTOPIA」を編集しはじめ-。『文藝』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2025/03/01

2024:11./ 153p
978-4-309-03928-2
¥1,760〔税込〕

小説　上杉鷹山<上>(人物文庫)

童門冬二 著

学陽書房

日本経済新聞 2025/03/01

1995:11./ 370p
978-4-313-75001-2
¥726〔税込〕

小説　上杉鷹山<下>(人物文庫)

童門冬二 著

学陽書房

日本経済新聞 2025/03/01

1995:11./ 347p
978-4-313-75002-9
¥726〔税込〕

景気はなぜ実感しにくいのか(ちくま新書　1836)

前田 裕之 著

筑摩書房

「生活が苦しい」という国民と「景気回復」を発表する政府はいつも食い違う。どうしてデータと実感がズレるのか。経済学の歴史から、現代の政策に至るまで「景気」の実相を究明し、不透明な日本経済に光をあてる。

日本経済新聞 2025/03/01

2025:1./ 250p
978-4-480-07664-9
¥990〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ロンドンの片隅で、この世界のモヤモヤに日々クエスチョンしているよ。

クラーク志織 著
平凡社
「世の中ってそんなもの」なんて、あきらめたくない-。ロンドンに暮らすイラストレーターが、日々の生活で感じるモヤモヤや社会について綴る、等身大の社会派イラスト・エッセイ。『ウェブ平凡』連載に書き下ろしを加える。

日本経済新聞 2025/03/01

2024:8./ 190p
978-4-582-83968-5
¥2,200〔税込〕

検証治安維持法～なぜ「法の暴力」が蔓延したのか～(平凡社新書　1072)

荻野　富士夫 著
平凡社
治安維持法は、国体の変革または私有財産制度の否認を目的とする結社の処罰を主旨としたが、社会運動全体を封殺、取締対象は一般市民にも及び、廃止まで 10 万人超が検挙された。稀代の悪法を多角的に検証する。

日本経済新聞 2025/03/01

2024:12./ 502p
978-4-582-86072-6
¥1,980〔税込〕

アリの放浪記～多様な個が生み出す驚くべき社会～

オドレー・デュストゥール／アントワーヌ・ヴィストラール 著
山と渓谷社
地球上に 2 万種存在するともいわれているアリの魅惑的な社会生活を、世界的アリの研究者が紹介する。個体の 5～10%しかいない巣の外に出て食べ物を探し求めるアリ「採餌アリ」に焦点を当て、アリたちの視点で世界を見る。

日本経済新聞 2025/03/01

2025:1./ 406p
978-4-635-23012-4
¥3,190〔税込〕

果てしなきイタリア旅～ローカル鉄道と路線バスでめぐる～

二村 高史 著
草思社
心に残るのは、車窓から見えた名前も知らない町、バールで出会った地元の人達…。1981 年に初めてイタリアを旅して以来、全 20 州大小 250 以上の村や町を公共交通機関を乗り継ぎ、踏破してきた著者のイタリア旅の記録。

日本経済新聞 2025/03/01

2025:2./ 375p
978-4-7942-2767-6
¥2,420〔税込〕

アワヨンベは大丈夫

伊藤亜和 著
晶文社
日本人のママと、セネガル人のパパの間に生まれた亜和(愛称アワヨンベ)と弟、祖父母…。個性派ぞろいのアワヨンベ一家の日常を綴るエッセイ。『晶文社スクラップブック』他掲載に書き下ろしを加え書籍化。

日本経済新聞 2025/03/01

2024:11./ 253p
978-4-7949-7452-5
¥1,760〔税込〕

世界が見たキモノ～オリエンタリズムとエロチシズムの文化人類学～

桑山 敬己 著
昭和堂
欧米人が抱くキモノのイメージは、エキゾチックでエロチック。こうした表象はいかに形成されたのか。幕末から令和までキモノが海外で歩んだ道を、写真や雑誌、博物館展示、土産物などを手がかりに文化人類学の視点で解明する。

日本経済新聞 2025/03/01

2025:2./ 384p
978-4-8122-2404-5
¥3,190〔税込〕

FACTFULNESS～10 の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣～

ハンス・ロスリング／オーラ・ロスリング／アンナ・ロスリング・ロンランド 著
日経ＢＰ社
賢い人ほどとらわれる 10 の思い込みから解放されれば、癒され、世界を正しく見るスキルが身につく。データや事実にもとづき、世界を正しく読み解く習慣「ファクトフルネス」を紹介する。見返しに「世界保健チャート」等あり。

日本経済新聞 2025/03/01

2019:1./ 397p
978-4-8222-8960-7
¥1,980〔税込〕

鈴木忠志の演劇～騙る身体と利賀の思想～

本橋　哲也 著
月曜社
劇団 SCOT を主宰し、演劇の実践をとおして、同時代を生きる人間像を描き続けてきた演出家・鈴木忠志。その仕事を「利賀から世界へ」を主題とする理論編と、代表的舞台をテーマ別に分析した作品編とにより詳細に検証する。

日本経済新聞 2025/03/01

2024:12./ 319p
978-4-86503-198-0
¥2,640〔税込〕

エネルギーバス～人生と仕事を変えるポジティブ・エネルギーの法則～

ジョン・ゴードン 著
オープンナレッジ
エネルギーバスの法則を実践すれば、個人、家族、チーム、学校、会社でポジティブなエネルギーを作ることができる。2 週間で人生を変えたあるビジネスマンの物語を通して、10 のエネルギー法則を身につける方法を紹介。

日本経済新聞 2025/03/01

2007:11./ 197p
978-4-902444-61-2
¥1,430〔税込〕

希望格差社会、それから～幸福に衰退する国の 20 年～

山田 昌弘 著
東洋経済新報社
リアルな世界で格差が広がる中、バーチャル世界で格差を埋める人々が増えている。「パラサイト・シングル」「希望格差」「婚活」などの言葉を世に出した稀代の社会学者が、現代日本社会における格差の実像に迫る。

日本経済新聞 2025/03/01、産経新聞 2025/03/30

2025:1./ 229p
978-4-492-22426-7
¥1,650〔税込〕

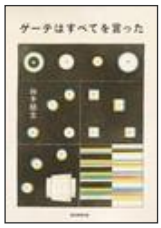
MARUZEN-YUSHODO

自転車～人類を変えた発明の 200 年～

ジョディ・ローゼン 著
左右社
自転車ブームを支えた植民地下コンゴのゴム農園、イギリス軍を苦しめたボーア軍の自転車部隊…。自転車をめぐる言説、文化、社会の様々な側面を論じ、自転車の 200 年の歴史と現代の世界で果たしている役割を解き明かす。

日本経済新聞 2025/03/01、朝日新聞 2025/03/22

2025:1./ 520p
978-4-86528-451-5
¥4,950〔税込〕



ゲーテはすべてを言った

鈴木結生 著
朝日新聞出版
高名なゲーテ学者・博把統一はある日、彼の知らないゲーテの名言と出会う。ティー・バッグのタグに書かれたその言葉を求めて膨大な原典を読み漁り、長年の研究生活の記憶を辿るが…。『小説トリッパー』掲載を書籍化。

日本経済新聞 2025/03/01、毎日新聞 2025/03/22

2025:1./ 188p
978-4-02-252039-5
¥1,760〔税込〕

おしゃべりな絶滅動物たち～会えそうで会えなかった生きものと語る未来～

川端 裕人 著
岩波書店
ドードー、ステラーカイギュウ、リョコウバト…。ヒトによる発見から驚くほど短期間で姿を消した動物たちの足跡を求め、著者は世界各地を訪ね歩き、彼らの声なき声を耳にする。愛すべき動物とヒトの未来の物語。

日本経済新聞 2025/03/08

2025:1./ 238p
978-4-00-061679-9
¥2,860〔税込〕

戦争は女の顔をしていない(岩波現代文庫　社会 295)

スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ 著
岩波書店
ソ連では第二次世界大戦で百万人をこえる女性が従軍し、看護婦や軍医としてのみならず兵士として武器を手にして戦った。五百人以上の従軍女性から聞き取りをおこない戦争の真実を明らかにした、ノーベル文学賞作家の主著。

日本経済新聞 2025/03/08

2016:2./ 506p
978-4-00-603295-1
¥1,540〔税込〕

魔法を描くひと

白尾　悠 著
KADOKAWA
アニメーション会社に勤める真琴は、偶然見つけたデザイン画に隠された秘密を追う。そこにはアニメーション黎明期に活躍した女性たちの存在が…。時と場所を超えて繋がる女性たちの物語。『カドブンノベル』掲載を基に書籍化。

日本経済新聞 2025/03/08

2025:2./ 329p
978-4-04-115331-4
¥2,145〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

輪をつくる～歌集～

竹中　優子 著
KADOKAWA
ゆうまぐれまだ生きている者だけが靴先を秋のひかりに濡らす 歌会を終えて雨戸を手分けして閉める力をちょうど分け合う フォークリフトに雪降る描写目は読んで真冬の最終列車の疲れ 第1歌集。

日本経済新聞 2025/03/08

2021:10./ 154p
978-4-04-884440-6
¥2,420〔税込〕

ハザマの思考～なぜ世界はニッポンのサブカルチャーに惹きつけられるのか～

丸山 俊一 著
講談社
「見たいようにしか見ない」人間の性が、欲望を錯綜させる…。映像と言葉のハザマで思考、表現し続ける著者の異色の教養論。分断の時代のジレンマを超えていく、サブカルチャー的思考法。『群像』連載を加筆修正。

日本経済新聞 2025/03/08

2025:1./ 234p
978-4-06-538139-7
¥1,870〔税込〕

海と生きる～「気仙沼つばき会」と『気仙沼漁師カレンダー』の10年～

唐澤 和也 著
集英社
気仙沼を愛する女性たちが「街の宝・漁師たちを世界に発信したい!」の一心で10名の写真家と紡いだ「気仙沼漁師カレンダー」10年の軌跡。元気と感動と地方創生のヒントも学べるノンフィクション。

日本経済新聞 2025/03/08

2024:11./ 268p
978-4-08-788107-3
¥2,420〔税込〕

脂肪と人類～渇望と嫌悪の歴史～(新潮選書)

イェンヌ・ダムベリ 著
新潮社
魔性の栄養素、脂肪。それは神への捧げものか、健康の敵か。脂肪の知られざる歴史から、世界各地の脂肪料理までを追い、石器時代より続く脂肪と人類の複雑な関係を描きだす。

日本経済新聞 2025/03/08

2025:1./ 240p
978-4-10-603921-8
¥2,200〔税込〕

皇室典範～明治の起草の攻防から現代の皇位継承問題まで～(中公新書2840)

笠原 英彦 著
中央公論新社
伊藤博文の主導で制定された明治の皇室典範。皇位継承資格は「男系の男子」限定で、退位の規定もない。その骨格は戦後の皇室典範でも維持された。本格的議論の再開に向けて、論点を整理し、法改正への道筋を探る。

日本経済新聞 2025/03/08

2025:1./ 256p
978-4-12-102840-2
¥990〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

京屋の女房

梶　よう子 著

潮出版社

浮世絵師、ベストセラー作家、経営者、商品デザイナーとして活躍した山東京伝。後妻のゆりは浮世離れした夫との暮らしに戸惑い、「出来た前妻」の影に嫉妬を覚えながらも良き妻を目指して…。『公明新聞』連載に加筆・修正。

日本経済新聞 2025/03/08

2025:1./ 349p
978-4-267-02449-8
¥1,870〔税込〕

クラウディオ・アバド～静かな革命家～

ヴォルフガング・シュライバー 著

春秋社

カラヤンに続くベルリン・フィルの芸術監督として一時代を築いた指揮者アバド。彼がともに仕事をした音楽家たちの証言にフォーカスし、その華々しいキャリアと、静かに燃える芸術の根源に迫る。ディスコグラフィも収録。

日本経済新聞 2025/03/08

2025:1./ 354p
978-4-393-93612-2
¥3,630〔税込〕

東アジア現代史(ちくま新書　1839)

家近 亮子 著

筑摩書房

日本・中国・韓国を擁する東アジア各国の近代化は鎖国の終焉と共に始まり、植民地化、幾度もの大戦を経た今も冷戦構造が残る。協調と衝突を繰り返し突き進んできた過去を振り返り、少子化や安全保障問題に続く歴史を総覧する。

日本経済新聞 2025/03/08

2025:1./ 512p
978-4-480-07667-0
¥1,540〔税込〕

フリーター、億万長者になる。～あなたの「隠れた才能」を爆発させる 12 の真実～

ジェイ・サミット 著

東洋経済新報社

「テクノロジーはチャンスの金脈」「成功に場所は関係ない」…。失業し、貧困にあえいでいた若者が起業家として自立し、大金を稼ぎ出すまでの歩みを、誰もが成功をつかむことができる「12 の真実」とともに紹介する。

日本経済新聞 2025/03/08

2024:12./ 404p
978-4-492-55841-6
¥1,980〔税込〕

冬の子～ジャック・ケッチャム短篇傑作選～(扶桑社ミステリー　ケ 6-14)

ジャック・ケッチャム　 著

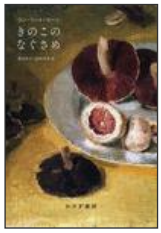
扶桑社

ある箱を覗いてから食事をいっさいとらなくなった息子、ハロウィンの夜に子供たちを受入れようとする女性…。現実的暴力と幻想的恐怖の果てに生まれる、静謐で哀切きわまる詩情。短篇小説の名手による作品全 19 篇を収録する。

日本経済新聞 2025/03/08

2025:2./ 407p
978-4-594-09878-0
¥1,320〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO



きのこのなぐさめ

ロン・リット・ウーン 著
みすず書房
喪失の痛みのさなか、社会人類学者の著者はふと参加したきのこ講座で、足下に広がるワンダーランドに出会う。きのこ狩り、愛好家の友情、色・形・匂いの個性、レシピ…。きのこの不可思議な魅力を通して描く、魂の再生の物語。

日本経済新聞 2025/03/08

2019:8./ 328p
978-4-622-08809-7
¥3,740〔税込〕

2050 年再エネ 9 割の未来～脱炭素達成のシナリオと科学的根拠～

安田 陽 著
山と渓谷社
本当に実現可能で、誰もが果実を手にする脱炭素シナリオとは? 気鋭の研究者が世界のオープンソース・インテリジェンスをもとに、なぜ日本の再生可能エネルギー政策が失敗しているか、そしてどうすれば成功するかを解説する。

日本経済新聞 2025/03/08

2024:12./ 294p
978-4-635-31052-9
¥1,870〔税込〕

裏庭のまぼろし～家族と戦争をめぐる旅～

石井 美保 著
亜紀書房
家業を「不急不要」とされ、祖父は軍事研究の道へ。陸軍将校だった祖父の弟は沖縄で消息を絶った-。人類学者が自身の家族史をひもときながら、等身大の<昭和と戦争>を紡ぐ。亜紀書房ウェブマガジン連載を加筆・修正。

日本経済新聞 2025/03/08

2024:7./ 255p
978-4-7505-1849-7
¥1,980〔税込〕

冬が終わるとき

竹中優子 著
思潮社
夜に帰っていくのか 夜が帰ってくるのか 膝を寄せて 今日 私の身体は温かく流れている 引き込んだものと混じり合って 骨壺は部屋にある 布の下に父は眠っている
(「骨壺」より) 第 1 詩集。

日本経済新聞 2025/03/08

2022:10./ 95p
978-4-7837-4512-9
¥2,200〔税込〕

エリカについて

小野　絵里華 著
左右社
透明なガラス 清潔な苺 誰かが帰ってくるまで おじいちゃんと食べた 去年の苺をじっと待っていた(「初夏の記憶」より) ユリイカ新人賞で鮮烈にデビューした小野絵里華の第 1 詩集。

日本経済新聞 2025/03/08

2022:8./ 114p
978-4-86528-333-4
¥2,200〔税込〕

ウクライナの小さな町～ガリツィア地方とあるユダヤ人一家の歴史～

バーナード・ワッサースタイン 著
作品社
現在の西ウクライナにまたがるガリツィア地方。ハプスブルク家の支配、ロシア革命、反ユダヤ主義、ホロコースト、独ソ戦…。ウクライナ辺境の小さな町クラコーヴィエツと、あるユダヤ人一家の歴史を描く。

日本経済新聞 2025/03/08

2024:4./ 360p
978-4-86793-025-0
¥3,960〔税込〕

ゲットーの娘たち～ナチスに抵抗したユダヤ人女性の知られざる歴史～

ジュディ・バタリオン 著
国書刊行会
ナチスに対するレジスタンスに参加し、ゲットー内外で戦った無名の若いユダヤ人女性たち。戦争への怒り、そして女性たちの誇りと友情を描き、知られざる歴史に迫る。

日本経済新聞 2025/03/08、朝日新聞 2025/03/29

2024:12./ 552p
978-4-336-07676-2
¥3,960〔税込〕

課税と脱税の経済史～古今の(悪)知恵で学ぶ租税理論～

マイケル・キーン、ジョエル・スレムロッド 著
みすず書房
税制のよしあしを定める原則は、どの時代にもある。シュメールの粘土板、カリグラ帝の奇抜な税制から、パナマ文書で暴露された狡猾な租税回避、ブロックチェーン技術で可能になる税務まで、税金にまつわるエピソードを紹介。

日本経済新聞 2025/03/08、毎日新聞 2025/03/15

2025:1./ 640p
978-4-622-09755-6
¥4,950〔税込〕

ダンス

竹中 優子 著
新潮社
同じ部署の 3 人が欠勤を繰り返し、3 人分の仕事をやらされる私。ある日、3 人のうちの 1 人である先輩女性下村さんから、彼らの三角関係について知らされ…。翻弄される私の日々を描く。『新潮』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2025/03/08、毎日新聞 2025/03/29

2025:1./ 120p
978-4-10-356081-4
¥1,870〔税込〕

写真の読みかた(岩波新書　青版　E-81)

名取 洋之助 著
岩波書店
わが国最初の本格的な報道写真家であり、アートディレクターでもあった著者が、写真の正しい読みかたは、文字の読みかたと同様、不可欠の知識であるとの主張のもとに執筆したユニークな写真論。

日本経済新聞 2025/03/15

1962:11./ 205p

地下鉄サリン事件はなぜ防げなかったのか～元警察庁刑事局長 30 年後の証言～

垣見隆 著
朝日新聞出版
オウム捜査の最高責任者だった元警察庁刑事局長が、「松本サリン事件」「地下鉄サリン事件」「警察庁長官狙撃事件」など一連の事件について、当時の資料やメモをもとに初めて証言。捜査の全内幕を語る。

日本経済新聞 2025/03/15

2025:2./ 327p
978-4-02-252031-9
¥2,090〔税込〕

これからの AI、正しい付き合い方と使い方～「共同知能」と共生するためのヒント～

イーサン・モリック 著
KADOKAWA
AI は仕事や暮らしをどう変えるのか。AI の出現で困る人、得をする人はどんな人か。教育やクリエイティブはどうなるのか。AI は人類の未来をより良くするものなのか-。生成 AI 実用研究の第一人者が AI と一緒に答える。

日本経済新聞 2025/03/15

2024:12./ 320p
978-4-04-115527-1
¥2,640〔税込〕

知能とはなにか～ヒトと AI のあいだ～(講談社現代新書　2763)

田口 善弘 著
講談社
AI は人類を上回る知能を持つか。シンギュラリティは起きるのか-。「知能」を再定義し、AI と「ヒトの知能」との共通点と相違点を整理したうえで、「シンギュラリティ」に達するという仮説の妥当性を論じる。

日本経済新聞 2025/03/15

2025:1./ 201p
978-4-06-538467-1
¥1,012〔税込〕

望むのは

古谷田　奈月 著
新潮社
歳を取るのが怖い、15 歳の小春。同い年の歩くんは誇り高きバレエダンサーなのに、私はまだ、何ものでもなくて…。風変わりな隣人や愛すべき友との日々を描いた青春小説。『小説新潮』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

日本経済新聞 2025/03/15

2017:8./ 205p
978-4-10-334913-6
¥1,650〔税込〕

遠くまで歩く

柴崎友香 著
中央公論新社
コロナウィルス感染拡大の中、作家のヤマネはあるオンライン講座を担当することに。PC を通して語られる受講生たちの記憶、忘れられない風景や言葉。人と人との新たな繋がりを描く長篇小説。『読売新聞』夕刊連載を単行本化。

日本経済新聞 2025/03/15

2025:1./ 364p
978-4-12-005876-9
¥2,090〔税込〕

世界最凶のスパイウェア・ペガサス

ローラン・リシャール／サンドリーヌ・リゴー 著
早川書房
イスラエル企業が開発したスパイウェア「ペガサス」。スマートフォンにインストールされるとあらゆる情報に外部からアクセス可能になる。世界中の強権・専制国家で盗聴・監視・脅迫に使われるスパイウェアの戦慄の実態を暴く。

日本経済新聞 2025/03/15

2025:1./ 431p
978-4-15-210397-0
¥3,300〔税込〕

会社と株主の世界史～ビジネス判断力を磨く「超・会社法」講義～

中島茂 著
日経ＢＰ社
「株式」をめぐる歴史を分解したら、会社の本質が見えてきた!「法人格」「定款」「株主有限責任」など、株式会社の基本的な制度について、それぞれの由来にまでさかのぼって探求し、制度の目的や趣旨を解き明かす。

日本経済新聞 2025/03/15

2025:1./ 415p
978-4-296-12139-7
¥2,420〔税込〕

非美学～ジル・ドゥルーズの言葉と物～

福尾 匠 著
河出書房新社
哲学を「概念の創造」として定義したドゥルーズにとって、芸術を通して概念を創造する批評とは何だったのか。ドゥルーズに伏在する「言葉と物」の二元論から、今世紀の日本の批評を導いてきた「否定神学批判」の限界に迫る。

日本経済新聞 2025/03/15

2024:6./ 463p
978-4-309-23157-0
¥2,970〔税込〕

哲学の教科書～ドゥルーズ初期～　新装版(河出文庫　ト 6-14)

ジル・ドゥルーズ 著
河出書房新社
高校教師をしていたジル・ドゥルーズが教科書として編んだ、マリノフスキーからベルクソン、マルクスにいたる全 66 篇の哲学アンソロジー「本能と制度」と、小論文「キリストからブルジョワジーへ」を収録。

日本経済新聞 2025/03/15

2025:2./ 252p
978-4-309-46810-5
¥1,210〔税込〕

がむしゃら 1500 キロ

浮谷 東次郎 著
筑摩書房
日本経済新聞 2025/03/15

1991:1./ 242p

MARUZEN-YUSHODO

惑星カザンの桜(創元 SF 文庫 SF は 1-1)

林 譲治 著

東京創元社

一万光年先の惑星カザンで、文明の急激な成長と滅亡が観測される。急遽送り込んだ調査チーム 750 人は、到着後完全に消息を絶つ。第二次調査隊は厳戒態勢のもと、惑星の地表へ降り立つが…。ファースト・コンタクト SF。

日本経済新聞 2025/03/15

2025:2./ 290p
978-4-488-61711-0
¥902〔税込〕

未来学～人類三千年の<夢>の歴史～

ジェニファー・M・ギドリー 著

白水社

紀元前からの人類の歴史における未来への視座を、未来という言葉の由来や定義から解読。未来を扱った書物の共通性や異質性、相違点をつぶさに見比べ、解釈と再解釈と咀嚼を繰り返し、独自の視点やメソドロジーを確立する。

日本経済新聞 2025/03/15

2025:1./ 210p
978-4-560-09145-6
¥2,640〔税込〕

天までのぼれ

中脇　初枝 著

ポプラ社

女も住むこの国のことを、女抜きで決めないでほしい-。男も女も、民衆には多くの権利がなかった 100 年以上前、高知で女性参政権を求めて申し立てをした楠瀬喜多。世界でも早い時期に声を上げた女性を描く評伝小説。

日本経済新聞 2025/03/15

2025:2./ 462p
978-4-591-15799-2
¥2,420〔税込〕

パラコンシステント・ワールド～次世代通信 IOWN と描く、生命と IT の<あいだ>～

澤田 純 著

ＮＴＴ出版

2 つの価値のあいだの矛盾を包摂し、新たな価値を共創するコミュニケーション・インフラとしての IOWN(アイオン)の基本的な考え方・理念を示す。生物学者・福岡伸一、人類学者・山極壽一らとの対談も収録。

日本経済新聞 2025/03/15

2021:12./ 224p
978-4-7571-0400-6
¥1,980〔税込〕

人間は料理をする<上>　火と水

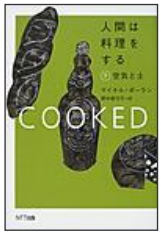
マイケル・ポーラン 著

ＮＴＴ出版

キッチンは自然界への魔法の扉。料理は錬金術だ! アメリカきっての食の権威が描く、愉快で驚きに満ちた料理修業の物語。上は、「火」と「水」をテーマに、バーベキューと煮込み料理に挑戦する。レシピも掲載。

日本経済新聞 2025/03/15

2014:2./ 270p
978-4-7571-6058-3
¥2,860〔税込〕



人間は料理をする<下>　空気と土

マイケル・ポーラン 著

ＮＴＴ出版

生き方を変えたいなら、料理をしよう。料理は愛だ! アメリカきっての食の権威が描く、愉快で驚きに満ちた料理修業の物語。下は、「空気」と「土」をテーマに、パンと発酵食品に挑戦する。レシピとお薦め料理本も掲載。

日本経済新聞 2025/03/15

2014:2./ 300p
978-4-7571-6059-0
¥2,860〔税込〕

日本の人魚伝説

髙橋 大輔 著

草思社

遠い昔、若狭湾に臨む小浜で人魚の肉を食べ、永遠の若さを手にした少女がいたという。彼女が食べた「人魚」とは一体何なのか? 飛鳥時代以来 40 数件にのぼる人魚出現記録を精査し、「日本の人魚」の正体に迫る。

日本経済新聞 2025/03/15

2025:2./ 287p
978-4-7942-2765-2
¥2,090〔税込〕

生成 AI 時代の教養～技術と未来への 21 の問い～

「IT 批評」編集部 編

風濤社

来たるべき社会を構想するために何を問い、何を考え抜くべきか。最前線で AI を開発している情報科学者や、AI と人間について深く考察を続ける有識者の論考をまとめる。『IT 批評』連載を単行本化。

日本経済新聞 2025/03/15

2024:4./ 461p
978-4-89219-464-1
¥3,960〔税込〕

漱石のデザイン論～建築家を夢見た文豪からのメッセージ～

川床　優 著

六耀社

夏目漱石は建築家を志していた! 編集者としてデザインの最前線を見続けてきた著者が、「デザイン」というフィルターを通して漱石の言葉を読み直し、これからのデザインのあるべき姿を考える。

日本経済新聞 2025/03/15

2012:12./ 261p
978-4-89737-730-8
¥2,200〔税込〕

日本映画について私が学んだ二、三の事柄～映画的な、あまりに映画的な～<1>(ワイズ出版映画文庫 11)

山田　宏一 著

ワイズ出版

巨匠、プログラム・ピクチャー、寅さん、ロマンポルノ、ドキュメンタリー、自主映画…。日本映画の面白さをとことん語った映画評論家・山田宏一の日本映画論を集成。1 は、「宮本武蔵」、「羅生門」などを取り上げる。

日本経済新聞 2025/03/15

2015:10./ 517p

日本経済の死角～収奪的システムを解き明かす～(ちくま新書　1840)

河野 龍太郎 著

筑摩書房

「失われた 30 年」で日本の生産性は上がっているのに、実質賃金が上がらないのはなぜか。日本経済の長期停滞をよみとく際の死角や誤算を白日のもとに晒し、社会が陥りかけている「収奪的システム」から抜け出す方途を示す。

日本経済新聞 2025/03/15、朝日新聞 2025/03/29

2025:2./ 288p
978-4-480-07671-7
¥1,034〔税込〕

「憲政常道」の近代日本～戦前の民主化を問う～(NHK ブックス 1292)

村井 良太 著

ＮＨＫ出版

政党支持率が落ちても政党の存在を前提とした政治システム自体はびくともしないのはなぜか? その理由をデモクラシー成立の経緯に焦点を当てて説き、「戦前日本=軍国主義」というイメージを吹き飛ばす。

日本経済新聞 2025/03/15、読売新聞 2025/03/16

2025:1./ 430p
978-4-14-091292-8
¥2,310〔税込〕

僕には鳥の言葉がわかる

鈴木 俊貴 著

小学館

「シジュウカラが 20 以上の単語を組み合わせて文を作っている」ことを世界で初めて解明した研究者が、鳥の言葉を科学的に解明するための実験方法などを、軽快に綴る。シジュウカラの鳴き声が聞ける QR コード付き。

日本経済新聞 2025/03/15、読売新聞 2025/03/23

2025:1./ 263p
978-4-09-389184-4
¥1,870〔税込〕

ピークアウトする中国～「殺到する経済」と「合理的バブル」の限界～(文春新書　1481)

梶谷 懐、高口 康太 著

文藝春秋

中国で本当は何が起きているのか。気鋭の経済学者とジャーナリストが、不動産市場の低迷による需要の落ち込みと、EV をはじめとする新興産業の快進撃と生産能力過剰という異なる問題を、中国経済が抱える宿痾として解明する。

日本経済新聞 2025/03/15、読売新聞 2025/03/23

2025:1./ 254p
978-4-16-661481-3
¥1,210〔税込〕

永遠の化学物質(フォーエバー・ケミカル)水の PFAS 汚染(岩波ブックレット 1030)

ジョン・ミッチェル、小泉 昭夫、島袋 夏子 著

岩波書店

焦げつかないフライパン等の生活用品に使用される PFAS(有機フッ素化合物)は、何千年も分解されず、発がん性が疑われる。それは米軍基地や工場から流出し、日本の水を汚染して…。基準値のない日本の水の安全性を追う。

日本経済新聞 2025/03/22

2020:8./ 88p
978-4-00-271030-3
¥748〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

C線上のアリア

湊かなえ 著
朝日新聞出版
両親を亡くし叔母に引き取られた美佐は、高校時代を山間部の田舎町で過ごす。それから30年、認知症の症状が見られる叔母を訪ねると家はごみ屋敷と化していた。片付けをする中で見つけたのは…。『朝日新聞』連載を加筆修正。

日本経済新聞 2025/03/22

2025:2./ 348p
978-4-02-252035-7
¥1,870〔税込〕

持続不可能な財政～再建のための選択肢～(講談社現代新書　2762)

河村 小百合／藤井 亮二 著
講談社
財政規律を失った世界最悪の借金大国ニッポン。この国はもうダメなのか。静かに迫る「破綻」を避けるために何ができるのか。財政のエキスパートが分析し、具体的な改革の選択肢の例を示す。

日本経済新聞 2025/03/22

2025:1./ 286p
978-4-06-538468-8
¥1,210〔税込〕

誰が星の王子さまを殺したのか?(集英社文庫　ヒ 8-6)

ミシェル・ビュッシ 著
集英社
サン=テグジュペリの死の真相を求め、世界中に散る彼の熱烈な信奉者で構成されたクラブのメンバーを訪ねる旅に出た飛行機整備士ヌヴァンと見習い探偵アンディ。だが、2人が面会したメンバーは、後に次々と不審な死を遂げ…。

日本経済新聞 2025/03/22

2025:2./ 279p
978-4-08-760796-3
¥1,265〔税込〕

複合汚染　改版(新潮文庫)

有吉 佐和子 著
新潮社
日本経済新聞 2025/03/22

2002:5./ 621p
978-4-10-113212-9
¥1,100〔税込〕

沈黙の春

レイチェル・カーソン 著
新潮社
自然破壊にとどまらず人間の生命の核、遺伝子直撃へと環境問題が加速度的に複雑化、深刻化しつつある今日、その危機を40年近く前にいちはやく指摘し、孤立無援のうちに出版された名著「生と死の妙薬」(64年刊)を新装。

日本経済新聞 2025/03/22

2001:6./ 403p
978-4-10-519703-2
¥2,970〔税込〕

教養主義の没落～変わりゆくエリート学生文化～(中公新書)

竹内　洋 著

中央公論新社

日本経済新聞 2025/03/22

2003:7./ 278p
978-4-12-101704-8
¥968〔税込〕

ユダヤ人の歴史～古代の興亡から離散、ホロコースト、シオニズムまで～(中公新書　2839)

鶴見 太郎 著

中央公論新社

ユダヤ人はなぜ世界に影響を与え続けているのか。古代王国建設から民族離散、東欧での迫害、ナチによる絶滅計画、ソ連・アメリカへの適応、中東戦争まで、3000 年のユダヤ史を雄大なスケールで描く。

日本経済新聞 2025/03/22

2025:1./ 336p
978-4-12-102839-6
¥1,188〔税込〕

「夢のエネルギー」核融合の最終解答

アーサー・タレル 著

早川書房

核融合の実現をめぐり、世界各国の政府系研究所、スタートアップ企業、投資家が熾烈な競争を繰り広げる現代。最も勝利に近いプレイヤーは? 本当に実現できるのか? 徹底した調査と取材で、夢のエネルギーの最前線に迫る。

日本経済新聞 2025/03/22

2025:1./ 286p
978-4-15-210396-3
¥2,860〔税込〕

やなせたかしの生涯～アンパンマンとぼく～(文春文庫　か 68-3)

梯 久美子 著

文藝春秋

自分の顔を食べさせる前代未聞のヒーロー「アンパンマン」の作者・やなせたかしは、「手のひらを太陽に」を作詞するなど、詩人としても知られる。生きることを肯定し、光にむかって歩き続けたその生涯を、評伝の名手が綴る。

日本経済新聞 2025/03/22

2025:3./ 269p
978-4-16-792346-4
¥770〔税込〕

わかったつもり～読解力がつかない本当の原因～(光文社新書)

西林　克彦 著

光文社

「わかる」から「よりわかる」に到る過程における「読む」という行為の主たる障害は「わかったつもり」。そこから先の探索活動を妨害する「わかったつもり」からの脱出法を述べる。文章をよりよく読むための一冊。

日本経済新聞 2025/03/22

2005:9./ 213p
978-4-334-03322-4
¥770〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

大人のための国語ゼミ 増補版

野矢 茂樹 著

筑摩書房

相手にきちんと伝わるように話せない、分かりやすい文章が書けない…。そんな大人たちに向けて、論理トレーニングの生みの親である著者が行う国語ゼミ。『學鐙』掲載のエッセイと『週刊読書人』掲載の対談を加えた増補版。

日本経済新聞 2025/03/22

2018:10./ 317p
978-4-480-81680-1
¥1,980〔税込〕

現代"間食"考～狭間からみる人類の食～(食の文化フォーラム)

野林 厚志 編

平凡社

民俗学、文化人類学、心理学などの分野から、間食の起源や社会文化的・心理的な役割を考え、世界各地の多様な事例から、食の未来を展望する。「食の文化フォーラム」の報告・討論をもとに書き下ろした論考を収録する。

日本経済新聞 2025/03/22

2025:1./ 272p
978-4-582-83980-7
¥3,300〔税込〕

消された水汚染～「永遠の化学物質」PFOS・PFOA の死角～(平凡社新書 994)

諸永 裕司 著

平凡社

発がん性が指摘される有機フッ素化合物によって、東京・多摩地区の一部の地下水と飲み水が汚染されていた。見えざる汚染源を追跡する過程で露わになったこの国の姿とは-。情報公開制度を駆使した、執念の調査報道の記録。

日本経済新聞 2025/03/22

2022:1./ 327p
978-4-582-85994-2
¥1,078〔税込〕

河内と船場～メディア文化にみる大阪イメージ～

山本 昭宏 編

ミネルヴァ書房

おもろいまち、がめついひと-。高度経済成長期にテレビなどのメディア文化にあらわれた大阪イメージはどのように定着していったのか。ステレオタイプな大阪イメージの起源に迫り、衰退著しいまちの来し方行く末をみつめる。

日本経済新聞 2025/03/22

2025:3./ 306p
978-4-623-09784-5
¥3,080〔税込〕

ひこうき雲(キム・エランの本 1)

キム・エラン 著

亜紀書房

逃げるように上京したヨンデは、親切なミョンファと出会うが、彼女はがんを患い…。タクシー運転手ヨンデの物語「かの地に夜、ここに歌」などを収録。韓国社会の片隅で必死に生きる声なき人々を描いた小説集。

日本経済新聞 2025/03/22

2022:7./ 315p
978-4-7505-1747-6
¥2,090〔税込〕

石油が国家を作るとき～天然資源と脱植民地化～

向山直佑 著
慶應義塾大学出版会
宗主国から単独独立を果たした東南アジアのブルネイ、中東のカタールとバーレーン。石油資源が植民地期の政治に与えた影響と、それにより誕生した「本来存在しないはずの国家」の形成メカニズムを解明する。

日本経済新聞 2025/03/22

2025:1./ 296p
978-4-7664-3004-2
¥4,620〔税込〕

建築のかたちと金融資本主義～氷山、ゾンビ、極細建築～

マシュー・ソウルズ 著
草思社
建築が金融商品として最適化された結果、何が起きるのか? 極端なフォルムや平面となった現代建築のかたちは都市や社会のあり方にどのような影響を与えるのか? 建築と金融資本主義の関係を分析した新たな建築評論。

日本経済新聞 2025/03/22

2025:2./ 334p
978-4-7942-2762-1
¥3,850〔税込〕

青い落ち葉

キム・ユギョン 著
北海道新聞社
彼らはひどい暴風にさらされ、なすすべもなく北朝鮮という樹木から外の世界に放り出される。転がって引き裂かれて、血を流しながらの道のりを経て、やっと韓国という安息の地に抱かれる-。脱北女性作家による短編小説集。

日本経済新聞 2025/03/22

2025:1./ 270p
978-4-86721-153-3
¥2,420〔税込〕

井上ひさし外伝～映画の夢を追って～

植田 紗加栄 著
河出書房新社
コメディ、時代劇、ミュージカル…。子どもの頃から、あらゆる映画を見続けた井上ひさし。その映画履歴を克明に追い、映画がいかに作家の血肉となったかを跡づける。

日本経済新聞 2025/03/22、読売新聞 2025/03/30

2025:1./ 233p
978-4-309-03942-8
¥3,520〔税込〕

フリーランスビジネス大全～決定版～

大坪　拓摩 著
KADOKAWA
脱会社員のマインドセットから、フリーランス開業の基本、コンセプトメイキングの極意、自分の価値の高め方、営業活動、事業拡大まで。さまざまな業種のフリーランスに向けて、成功するための極意を具体的に伝授する。

日本経済新聞 2025/03/29

2025:1./ 295p
978-4-04-607150-7
¥2,090〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

誤解を招いたとしたら申し訳ない～政治の言葉/言葉の政治～(講談社選書メチエ　821)

藤川 直也 著
講談社
「そんなつもりはなかった」という言い逃れ、「誤解を招いたとしたら申し訳ない」という謝罪もどき…。こうした発言の何が問題なのか。政治から日常の場面まで、気鋭の言語哲学者がコミュニケーションのリアルを明かす。

日本経済新聞 2025/03/29

2025:2./ 337p
978-4-06-538643-9
¥2,420〔税込〕

浮浪児 1945-～戦争が生んだ子供たち～(新潮文庫　い-99-7)

石井 光太 著
新潮社
終戦直後、12 万人以上の戦災孤児が生まれた日本。その中心、焼け跡の東京に生きた子供たちはどこへ消えたのか? 資料や証言をもとに、浮浪児と呼ばれた子供たちの軌跡を追う。

日本経済新聞 2025/03/29

2017:8./ 345p

結論それなの、愛

一木 けい 著
新潮社
バンコクの高級アパートで暮らすマリは、コロナ禍で出張先から帰ってこられない夫と別居生活を送っている。孤独なマリに声を掛けたのは、テオというタイ人青年だった…。全 3 編を収録。『小説新潮』掲載に加筆修正。

日本経済新聞 2025/03/29

2025:2./ 216p
978-4-10-351443-5
¥1,925〔税込〕

日本軍兵士<続>　帝国陸海軍の現実(中公新書　2838)

吉田 裕 著
中央公論新社
先の大戦で 230 万人の兵士を喪った日本。死者の 6 割は戦病死による。その背景には、「正面装備」以外の軽視、下位兵士に犠牲を強いる構造、兵士の生活・衣食住の無視があった…。兵士たちの体験を通して日本軍の本質を描く。

日本経済新聞 2025/03/29

2025:1./ 264p
978-4-12-102838-9
¥990〔税込〕

面識経済～資本主義社会で人生を愉しむためのコミュニティ論～

山崎亮 著
光文社
欲望と不安の消費社会の中で、人生の豊かさを追求する経済活動をじっくり考えなおす。現代社会で、労働や余暇、そして「顔が見える」ことの価値を再考する新しいコミュニティ論。

日本経済新聞 2025/03/29

2025:2./ 423p
978-4-334-10556-3
¥3,465〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

Q&A フリーランス法の解説

鎌田 耕一、岡田 直己、中野 雅之、石川 哲平 著
三省堂
「フリーランス法」の内容を、法律・政省令・指針・ガイドライン等に基き、Q&A 形式でわかりやすく解説する。独占禁止法、下請法、労働法と対比した記述も充実。

日本経済新聞 2025/03/29

2025:2./ 264p
978-4-385-32037-3
¥3,080〔税込〕

安楽死の医師～自ら「死」を選んだ患者と家族に起きたこと～

ジーン　マーモレオ／ジョハンナ　シュネラー 著
大和書房
2016 年より安楽死が合法化されたカナダで「死の介助」をしてきた医師は、痛みに苦しむ患者に「死」をもたらすことは救いだと思っていたが-。患者、家族、法律…。変わり続ける解釈や制度とどう向き合うべきかを考える。

日本経済新聞 2025/03/29

2025:1./ 365p
978-4-479-39443-3
¥2,640〔税込〕

遙かなる山に向かって～日系アメリカ人二世たちの第二次世界大戦～

ダニエル・ジェイムズ・ブラウン 著
みすず書房
日米開戦によって日系アメリカ人の日常は一変した。日本各地出身の両親のもとに生まれ、アメリカ市民として育った 4 人の二世を主人公に、不条理と闘った日系人たちの群像を精緻に描くノンフィクション。

日本経済新聞 2025/03/29

2025:2./ 648p
978-4-622-09647-4
¥5,280〔税込〕

フリーランス大全～起業から経営、節税対策、老後資金まで!～ 第 2 版

井戸 美枝 著
エクスナレッジ
フリーランスの始め方から働き方、稼ぎ方、老後の備えまでを網羅。確定申告のツボ、社会保障、集客・営業、iDeCo・年金、新 NISA、インボイス対策を、図を用いてわかりやすく解説する。「フリーランス法」にも対応。

日本経済新聞 2025/03/29

2024:12./ 223p
978-4-7678-3363-7
¥1,760〔税込〕

フリーランス農家という働き方～おためし農業のすすめ～

小葉松 真里 著
太郎次郎社エディタス
年に 40 回は飛行機で飛びまわり、農場で汗を流す。魅力的な農家の情報を発信し、各地の農家をヨコにつなげる。農業のサポーターを自称する著者が、フリーランス農家という新しい働き方を紹介。

日本経済新聞 2025/03/29

2024:12./ 253p
978-4-8118-0871-0
¥1,980〔税込〕

あらがうドラマ〜「わたし」とつながる物語〜

西森 路代 著
３０３　ＢＯＯＫＳ
2025:3./ 271p
978-4-909926-43-2
¥1,870〔税込〕

ままならない日常にあらがうために、今見るべきドラマがここにある! 日々変化する価値観や社会のあり方をとらえた日本のテレビドラマ 23 作品を厳選し、さまざまな切り口から書き尽くす。脚本家・吉田恵里香との対談も収録。

日本経済新聞 2025/03/29

カヴァフィス詩集(岩波文庫　赤 N735-1)

カヴァフィス 著
岩波書店
2024:12./ 478p
978-4-00-377015-3
¥1,364〔税込〕

歴史を題材にアイロニーの色調でうたうもの、同性との秘められた恋と官能を追憶としてよむもの…。池澤夏樹が半生をかけて訳した、孤高のギリシャ語詩人カヴァフィスの全 154 詩を収録。詳細な訳注も付す。

毎日新聞 2025/03/01

限界の国立大学〜法人化 20 年、何が最高学府を劣化させるのか?〜(朝日新書　976)

朝日新聞「国立大の悲鳴」取材班 著
朝日新聞出版
2024:11./ 197p
978-4-02-295291-2
¥924〔税込〕

国立大学が法人化されて 20 年。この転換とその後の政策は、大学にどんな影響を及ぼしたのか。学長や教職員へのアンケートに基づいて、国立大学で起きている真相に迫る。『朝日新聞デジタル』連載を新書化。

毎日新聞 2025/03/01

ヨーロッパの地理哲学(講談社選書メチエ　819)

マッシモ・カッチャーリ 著
講談社
2025:1./ 293p
978-4-06-538160-1
¥2,255〔税込〕

ヨーロッパは、いかにして自らを「ヨーロッパ」と同定するに至ったのか? 古典古代のテクストに準拠しつつ、中世から近代、現代にいたるさまざまなヨーロッパ像と突き合わせながら丹念に読み解く。

毎日新聞 2025/03/01

詩探しの旅

四元康祐 著
日経ＢＰ社
2024:11./ 275p
978-4-296-12125-0
¥2,420〔税込〕

旧ユーゴ、北欧、南欧、中東、南米、香港…。この 20 年、世界各地の詩祭を渡り歩いてきた著者が、詩人たちとの魅惑の出会いや詩のエッセンスを綴る。『日本経済新聞』連載を単行本化。

毎日新聞 2025/03/01

MARUZEN-YUSHODO

遠慮深いうたた寝(河出文庫　お 27-5)

小川 洋子 著
河出書房新社
実際には味わえない体験、自分とは異なる誰か、この世にはいない死者、そういうものたちへの想像力が、現実の私の救いとなってくれている-。温かな眼で日常を掬い取り、物語の向こう側を描く、珠玉のエッセイ集。

毎日新聞 2025/03/01

2025:2./ 297p
978-4-309-42166-7
¥891〔税込〕

見えない都市(河出文庫)

イタロ・カルヴィーノ 著
河出書房新社
現代イタリア文学を代表し世界的に注目され続けている著者の名作。様々な空想都市の奇妙で不思議な報告を描く幻想小説の極致。

毎日新聞 2025/03/01

2003:7./ 240p
978-4-309-46229-5
¥1,078〔税込〕

俺の文章修行

町田 康 著
幻冬舎
千回読んだ「ちからたろう」がつくった文章の原型と世界観。ゴミ捨て場から持ち去った「ことわざ故事金言小事典」の活躍…。町田康の文体に宿るその精神と技巧。『小説幻冬』連載を加筆・修正、改題。

毎日新聞 2025/03/01

2025:1./ 260p
978-4-344-04395-4
¥1,870〔税込〕

書く瞑想〜1 日 15 分、紙に書き出すと頭と心が整理される〜

古川武士 著
ダイヤモンド社
必要なのは紙とペンのみ。自分と向き合い、本当に大切なことに気づけば、生き方は今よりずっとシンプルになる-。自分を整理するための「書くメソッド」を体系化して紹介する。フォーマットのダウンロードサービス付き。

毎日新聞 2025/03/01

2022:1./ 239p,8p
978-4-478-11303-5
¥1,650〔税込〕

人生の経営戦略〜自分の人生を自分で考えて生きるための戦略コンセプト 20〜

山口　周 著
ダイヤモンド社
「正味現在価値」「絶対優位の戦略」「バランス・スコア・カード」…。経営学の基本的な概念や理論を解説し、それを「人生の経営戦略」にどう適用するかを具体的な例を交えて説明する。

毎日新聞 2025/03/01

2025:1./ 351p
978-4-478-11993-8
¥1,980〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

比較のなかの韓国政治

浅羽 祐樹 著

有斐閣

大統領の弾劾・罷免や徴用工判決など、一見不可解に映る、ダイナミックな韓国政治を理解するための注釈書。比較政治の理論のなかに韓国政治を位置づけ、政治制度から市民運動、メディア、外交政策までを幅広く解説する。

毎日新聞 2025/03/01

2024:12./ 364p
978-4-641-14954-0
¥2,860〔税込〕

新・動物の解放

ピーター・シンガー 著

晶文社

動物への非倫理的扱いを禁止せよ! ヒトが、ヒト以外の動物をどのように扱うべきかという問題を考察する。本文の 3 分の 2 を書き換え、さらに気候変動や新型ウイルスなど新たなトピックを盛り込み全面改訂。

毎日新聞 2025/03/01

2024:12./ 447p
978-4-7949-7454-9
¥4,400〔税込〕

こうして、ともにいきている

多屋 光孫 著

汐文社

草原で暮らし、草を食べるシマウマとヌー。森で暮らし、獲物を狩るワシとフクロウ。自然界の同じ場所で暮らす生き物たちは、工夫を重ねながら食生活を送っている-。野生の生き物を通して「ともに生きるヒント」を伝える絵本。

毎日新聞 2025/03/01

2024:12./ 32p
978-4-8113-3222-2
¥1,870〔税込〕

小林秀雄、吉本隆明、福田恆存-日本人の「断絶」を乗り越える(テンミニッツ TV 講義録 4)

浜崎洋介 著

ビジネス社

小林秀雄、吉本隆明、福田恆存という近現代の日本を代表する文芸批評家をあげ、現代日本人の幸福とそれを支える自然観のあり方について考える。教養動画メディア「テンミニッツ TV」での講義を元に書籍化。

毎日新聞 2025/03/01

2024:12./ 179p
978-4-8284-2683-9
¥1,870〔税込〕

月とアマリリス

町田 そのこ 著

小学館

北九州市の山で一部白骨化した遺体が発見され、そのポケットの中に「みちる」という名前が書かれたメモが入っていた。ライターの飯塚みちるは、遺体の背景を追うが…。『STORY BOX』連載を大幅に加筆・改稿。

毎日新聞 2025/03/01、朝日新聞 2025/03/22

2025:3./ 360p
978-4-09-386745-0
¥1,870〔税込〕

おとぎ話はなぜ残酷でハッピーエンドなのか(岩波ジュニア新書　993)

ウェルズ 恵子 著

岩波書店

血まみれの部屋、口封じの呪い、傷つく身体…。おとぎ話の恐ろしさにはワケがある。物語中の怖くて不幸な出来事を読み解き、それと対照的な幸せな結末の意味を考える。おとぎ話のモヤモヤ Q&A も掲載。

毎日新聞 2025/03/01、読売新聞 2025/03/09

2024:12./ 216p
978-4-00-500993-0
¥1,034〔税込〕

MANGARCHITECTURE 建築家の不在

吉村靖孝 著

ＴＯＴＯ出版

建築家・吉村靖孝が設計した 7 つの建築を題材に、コルシカ、川勝徳重、三池画丈ら 7 人の漫画家が描き下ろした漫画短編集。舞台となる「Red Light Yokohama」等の建築紹介や漫画建築史年表なども収録。

毎日新聞 2025/03/03

2025:1./ 215p
978-4-88706-415-7
¥2,750〔税込〕

超解読!はじめてのフッサール『イデーン』(講談社現代新書　2761)

竹田 青嗣／荒井 訓 著

講談社

「普通認識は可能か」。ギリシャ哲学以来続く認識問題の難問を解明するためには根本的な「視線の逆転」が欠かせないと主張したフッサール。ヨーロッパ哲学にパラダイム転換をもたらした現象学の核心がわかる対訳的超解読。

毎日新聞 2025/03/08

2024:12./ 345p
978-4-06-538080-2
¥1,320〔税込〕

ふりかえれば日々良日

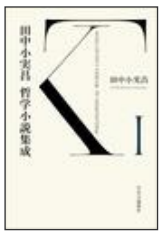
佐久間 良子 著

小学館

映画や NHK 大河ドラマ、舞台などで主演を果たしてきた女優・佐久間良子が、亡くなってしまった尊敬する先輩や仲間のこと、出演してきた作品の思い出などを綴る。テキストデータをダウンロードできる QR コード付き。

毎日新聞 2025/03/08

2025:1./ 236p
978-4-09-389189-9
¥1,870〔税込〕



田中小実昌哲学小説集成<1>

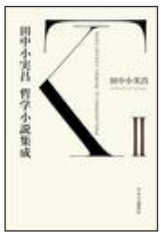
田中小実昌 著

中央公論新社

田中小実昌の晩年の代表的シリーズとなった「哲学小説」を集成。1 は、「カント節」「モナドは窓がない」を収録する。巻末に柄谷行人、平岡篤頼、井上忠との対談も掲載。

毎日新聞 2025/03/08

2025:1./ 377p
978-4-12-005879-0
¥3,960〔税込〕



田中小実昌哲学小説集成<2>

田中小実昌 著
中央公論新社
田中小実昌の晩年の代表的シリーズとなった「哲学小説」を集成。2 は、「なやまない」「ないものの存在」を収録する。巻末に池内紀+堀江敏幸、保坂和志+石川忠司の対談も掲載。

毎日新聞 2025/03/08

2025:1./ 376p
978-4-12-005880-6
¥3,960〔税込〕

森永卓郎流「生き抜く技術」～31 のラストメッセージ～

森永 卓郎 著
祥伝社
お金は自分の自由を守るための武器、ハーフスイングではホームランは絶対に打てない、前に出たければぶっちぎりを目指せ…。森永卓郎が教え子たちだけに伝えてきた「幸福な人生を送るためのコツ」を公開する。

毎日新聞 2025/03/08

2025:3./ 236p
978-4-396-61835-3
¥1,870〔税込〕

小説にできること(ちくまプリマー新書　472)

藤谷 治 著
筑摩書房
小説が持つ多様な側面と可能性の、代表的なものを紹介。小説という文学ジャンルがどれだけ広大か、どれだけバラエティに富んでいるか、そしてどれだけ可能性を秘めているかを伝える。

毎日新聞 2025/03/08

2024:10./ 166p
978-4-480-68494-3
¥880〔税込〕

人間一生図巻(ACTION COMICS)

いがらしみきお 著
双葉社
「世界は人間なしに始まったし、人間なしに終るだろう」レヴィ=ストロース「悲しき熱帯」の最終章に出てくる有名な言葉です。それでもヒトはこの世に生まれ、生き、病み、老い、死ぬ。それでもヒトそれぞれの生きざまは胸を打つ。

毎日新聞 2025/03/08

2025:2./ 162p
978-4-575-44076-8
¥1,320〔税込〕

無我夢中～柔道に育てられて～

柏崎 克彦 著
ベースボール・マガジン社
ただ柔道が好きな少年を世界選手権王者、五輪日本代表に至らしめたものとは-。柔道史に輝く“寝技師”柏崎克彦の半生を紐解く。『月刊武道』連載を単行本化。寝技の動画が視聴できる QR コード付き。

毎日新聞 2025/03/08

2025:1./ 231p
978-4-583-11734-8
¥2,200〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

家族写真の歴史民俗学

川村　邦光 著
ミネルヴァ書房
19 世紀から現代に至るまでの家族写真の構図や撮影された背景を分析。社会における家族の表象、また個人が過去や死者と向き合う際のよすがとしての「家族写真」を再考する。

毎日新聞 2025/03/08

2024:12./ 376p
978-4-623-09768-5
¥4,180〔税込〕

センスのはなし～無理をせず、無駄を楽しむ～

秋田道夫 著
ディスカヴァー・トゥエンティワン
マイナスの言葉を投げかけない、毎日の「小掃除」でリセットする、会話は「腹八分目」で次の約束につなげる…。プロダクトデザイナーが、「センス」がいい人の心の持ち方、暮らし、装い、コミュニケーションについて語る。

毎日新聞 2025/03/08

2025:2./ 175p
978-4-7993-3124-8
¥1,980〔税込〕

異端～記者たちはなぜそれを書いたのか～

河原仁志 著
旬報社
自社特ダネを裁いた検証取材、現場奮い立たせた社長論文、特ダネより大事なもの…。“異端”の新聞記者たちの生きざまを映し出した 7 つの物語。『メディア展望』連載を加筆し書籍化。

毎日新聞 2025/03/08

2024:10./ 207p
978-4-8451-1949-3
¥1,870〔税込〕

メイジー・チェンのラストチャンス(金原瑞人選モダン・クラシック YA)

リサ・イー 著
作品社
中国系アメリカ人の少女メイジーは、母の故郷で祖父母のレストランを手伝いながら夏休みを過ごす。移民の料理人ラッキーの苦闘の物語に、家族の絆を大切に思う。そんなとき、店に大事件が…。ニューベリー賞オナー賞受賞作。

毎日新聞 2025/03/08

2025:1./ 239p
978-4-86793-070-0
¥2,420〔税込〕

ちんどん屋～宣伝・広告と芸能のハブとなる生業～(大阪大学総合学術博物館叢書 21)

山﨑達哉 編
仮屋崎郁子／横田 洋／橋爪節也／輪島裕介／薗田 郁／鈴木聖子／伊東信宏 著
大阪大学出版会
扮装をし、音楽を用いて人々の耳目を集め、宣伝文句の口上を述べる街頭の「広告代理店」ちんどん屋に様々な角度から光をあてる。大阪大学総合学術博物館にて開催された特別展に関連した論考、エッセイ等を収録。

毎日新聞 2025/03/08

2024:11./ 93p
978-4-87259-820-9
¥2,530〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

終わりと始まり

ヴィスワヴァ・シンボルスカ 著
未知谷
毎日新聞 2025/03/08

1997:1./ 126p
978-4-915841-51-4
¥1,540〔税込〕

日本史敗者の条件(PHP 新書　1418)

呉座 勇一 著
ＰＨＰ研究所
部下の不満に気付かなかった織田信長、非情になれずに戦略ミスした西郷隆盛、意思疎通が欠如していた山本五十六…。歴史上の敗者 8 人に注目し、彼らがなぜ敗れたのか、失敗したのかを考察する。『Voice』連載を新書化。

毎日新聞 2025/03/08、産経新聞 2025/03/23

2025:1./ 256p
978-4-569-85845-6
¥1,100〔税込〕

本の江戸文化講義～蔦屋重三郎と本屋の時代～

鈴木　俊幸 著
KADOKAWA
江戸時代になって日本は初めて書籍が豊富にある時代を迎え、普通の人々にとって書籍が身近なものとなり、本屋がたくさんできた。書籍商売の歴史をつぶさにたどり、書籍や文芸などの文化的産物やさまざまな事象を俯瞰する。

毎日新聞 2025/03/08、読売新聞 2025/03/09

2025:1./ 470p
978-4-04-400852-9
¥2,200〔税込〕

やかまし村の春夏秋冬(リンドグレーン・コレクション)

アストリッド・リンドグレーン 著
岩波書店
中屋敷に住む 7 歳のリーサが、兄のラッセとボッセ、北屋敷のブリッタとアンナ、南屋敷のウッレとくりひろげる、愉快な日々を語る。原書と同じイングリッド・ヴァン・ニイマンの挿絵を収録。「やかまし村」シリーズの 2 作目。

毎日新聞 2025/03/15

2019:12./ 182p
978-4-00-115735-2
¥1,815〔税込〕

中華満腹大航海

酒徒 著
KADOKAWA
人気レシピ本「あたらしい家中華」の原点がここに! 本場の中華料理に魅入られ、中国各地の食べ歩きをライフワークとしている著者が、15 の都市を選び、その都市ならではの名物料理 3 品を紹介する。レシピやコラムも掲載。

毎日新聞 2025/03/15

2024:12./ 342p
978-4-04-400840-6
¥1,870〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

正午派 2025(小学館文庫　さ 4-16)

佐藤 正午 著
小学館
数々の名作を上梓してきた佐藤正午。その執筆活動 40 周年を記念して、文庫初収録となる短編小説やエッセイから、単行本未収録の連載「佐世保駅 7 番ホーム」までを網羅した作品集。

毎日新聞 2025/03/15

2025:1./ 432p
978-4-09-407425-3
¥935〔税込〕

コミンテルン～国際共産主義運動とは何だったのか～(中公新書　2843)

佐々木 太郎 著
中央公論新社
世界革命のために誕生し、各国共産主義政党の国際統一組織として、様々な介入や工作を行ったコミンテルン(共産主義インターナショナル)。人々を煽動する一方、自らも歴史に翻弄され続けた組織の軌跡を描き出す。

毎日新聞 2025/03/15

2025:2./ 320p
978-4-12-102843-3
¥1,155〔税込〕

2030-2040 年日本の土地と住宅(中公新書ラクレ　828)

野澤千絵 著
中央公論新社
なぜ都市部の住宅は高騰しているのか。再開発とタワマンの「罪」を炙り出し、2030 年、2040 年に中古マンションと中古戸建が流通する土地をデータに基づき徹底分析。エリア別ランキング表とともに紹介する。

毎日新聞 2025/03/15

2024:12./ 281p
978-4-12-150828-7
¥1,100〔税込〕

獣医さんがゆく～15 歳からの獣医学～

浅川　満彦 著
東京大学出版会
身近にある動物病院の獣医師から、競走馬や野生動物を診療する獣医師、食肉をまもる獣医師、医薬品開発に関わる獣医師まで、さまざまな「獣医さん」を現場の視点で紹介。獣医大生のカリキュラムについての情報も満載。

毎日新聞 2025/03/15

2025:1./ 230p
978-4-13-063963-7
¥2,970〔税込〕

ブレイクショットの軌跡

逢坂　冬馬 著
早川書房
自動車期間工の本田昴は、2 年 11 カ月の寮生活を終えようとしていた。最終日、同僚が SUV ブレイクショットのボルトをひとつ車体の内部に落とすのを目撃する。見過ごせば明日からは自由の身だが…。

毎日新聞 2025/03/15

2025:3./ 577p
978-4-15-210411-3
¥2,310〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ぼくのことをたくさん話そう(光文社古典新訳文庫　KA サ 6-1)

チェーザレ・ザヴァッティーニ 著
光文社
眠れぬ夜の寝床に現れた幽霊が、ぼくを奇妙な「あの世」への旅にいざなう。世界を飛び回り、地獄から天国までの愉快な場面を見物するが…。イタリア映画の脚本家として知られる著者による、挿話に満ちた世界を巡る異色作。

毎日新聞 2025/03/15

2024:12./ 164p
978-4-334-10532-7
¥1,056〔税込〕

加藤友三郎(人物叢書新装版　通巻 324)

西尾　林太郎 著
吉川弘文館
明治・大正期、5 つの内閣で海軍大臣を務め、ワシントン会議の首席全権として軍縮を決断・実行した加藤友三郎。首相就任後、シベリア撤兵を行ない、国際協調外交と普通選挙制の導入など国内改革を目指した彼の生涯を描く。

毎日新聞 2025/03/15

2024:10./ 352p
978-4-642-05317-4
¥2,640〔税込〕

WORKSIGHT<26> こどもたち

WORKSIGHT 編集部 編
学芸出版社
コクヨが外部編集員をメンバーに迎え、新たな社会の萌芽を見出すオウンドメディア。26 は、江戸末期に異邦人が見た「こどもの天国」から保育運動の思想まで、大人の身近な他者「こども」を通して日本社会を浮かび上がらせる。

毎日新聞 2025/03/15

2025:2./ 128p
978-4-7615-0933-0
¥1,980〔税込〕

タコの精神生活～知られざる心と生態～

デイヴィッド・シール 著
草思社
タコはどう世界を見ているのか。タコはどんな価値観で物ごとを判断するのか。タコ研究の第一人者が、自身の長年にわたる研究やフィールドワークから、知的で、奇妙なタコの驚くべき生態と内面に迫る。

毎日新聞 2025/03/15

2024:11./ 372p
978-4-7942-2751-5
¥3,080〔税込〕

口笛のはなし

最相 葉月／武田 裕熙 著
ミシマ社
口笛はもっとも身近で、最古の楽器!? 口笛の歴史や文化、口笛音楽の発展やプロ奏者の活躍とテクニックまで、さまざまな切り口から口笛に迫る。口笛の吹き方も解説。口笛の動画を視聴できる QR コード付き。

毎日新聞 2025/03/15

2025:2./ 277p
978-4-911226-15-5
¥2,200〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ハチは心をもっている～1匹が秘める驚異の知性、そして意識～

ラース・チットカ 著
みすず書房
数を数え、道具を使い、ほかの個体から問題解決の方法を盗みさえする。ハチは「群知能」だけでなく、1匹1匹も高度に進化した心をもっていた! ハナバチの認知研究の権威が、その驚くべき精神生活を明らかにする。

毎日新聞 2025/03/15、朝日新聞 2025/03/22

2025:2./ 352p
978-4-622-09767-9
¥3,960〔税込〕

向谷地さん、幻覚妄想ってどうやって聞いたらいいんですか?(シリーズケアをひらく)

向谷地 生良 著
医学書院
精神医療の常識を溶かし、対人支援の枠組みを更新し続ける「べてるの家」創設者・向谷地生良のインタビューと、彼に言語論から迫る社会学者・大澤真幸の特別寄稿を収録。テキストデータ引換券付き。

毎日新聞 2025/03/15、読売新聞 2025/03/23

2025:2./ 281p
978-4-260-06153-7
¥2,200〔税込〕

熊はどこにいるの

木村 紅美 著
河出書房新社
暴力から逃れた女を匿う山奥の家に暮らす、リツとアイ。津波ですべてを失ったサキと、災後の移住者であるヒロ。震災から7年の地で、身元不明の幼子をめぐり、4人の女たちの運命が、いま、動き出す。『文藝』掲載を単行本化。

毎日新聞 2025/03/15、読売新聞 2025/03/23

2025:2./ 186p
978-4-309-03946-6
¥1,980〔税込〕

までないの

ヨシタケシンスケ 著
ブロンズ新社
たべたいし、しゃべりたいし、あそびたいの。ひとつずつなんてまてないの。早く遠足に行きたいの、明日の朝までまてないの…。あかちゃんから、おばあちゃんまで、まてない人のせっかちな人生をユーモラスに描いた絵本。

毎日新聞 2025/03/15、読売新聞 2025/03/30

2025:3./ 32p
978-4-89309-741-5
¥1,430〔税込〕

ルポ軍事優先社会～暮らしの中の「戦争準備」～(岩波新書　新赤版 2053)

吉田 敏浩 著
岩波書店
いま必要なのは他国を攻撃できるミサイルか、生きるためのケアの充実か? 集団的自衛権の行使を容認した安倍政権以降、全国各地で進行する軍事化の実態を明らかにし、主体的な安保政策を問う。『世界』等掲載を大幅に加筆。

毎日新聞 2025/03/22

2025:2./ 264p
978-4-00-432053-1
¥1,056〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ジャーニー・オブ・ホープ～被害者遺族と死刑因家族の回復への旅～(岩波現代文庫　社会 350)

坂上 香 著
岩波書店
殺人事件の被害者遺族と死刑囚の家族が、ともに旅をし、語り合い、体験を共有する-。死刑を宣告された少年たちの背景、旅に集う人々の心の葛藤を丹念なインタビューで綴る。参加者たちのその後のエピソードを加えて文庫化。

毎日新聞 2025/03/22

2024:12./ 398p
978-4-00-603350-7
¥1,573〔税込〕

透析を止めた日

堀川 惠子 著
講談社
なぜ、透析患者は「安らかな死」を迎えることができないのか? どうして、がん患者以外は「緩和ケア」さえ受けられないのか? 透析患者の終末期に生じる問題について、患者の家族の立場から国の医療政策に一石を投じる。

毎日新聞 2025/03/22

2024:11./ 325p
978-4-06-534279-4
¥1,980〔税込〕

すごい長崎～日本を創った「辺境」の秘密～

下妻 みどり 著
新潮社
出島と原爆に連なる歴史が、長崎を日本の都市の中で、特別な存在としてきた。長崎在住半世紀の地元作家が、地理と歴史を掘り分け、教科書ではわからない独特の魅力を紹介する。『ウェブ考える人』連載を大幅に加筆修正。

毎日新聞 2025/03/22

2025:1./ 223p
978-4-10-356051-7
¥1,980〔税込〕

ニューロマンサー(ハヤカワ文庫)

ウィリアム・ギブスン 著
早川書房
毎日新聞 2025/03/22

1986:7./ 523p
978-4-15-010672-0
¥1,122〔税込〕

漢字はこうして始まった～族徴の世界～(ハヤカワ新書　038)

落合　淳思 著
早川書房
3000 年以上前、中国最古の王朝「殷」で発明され、部族固有のシンボルとして青銅器に鋳込まれた原初の漢字「族徴」。謎に包まれた古代社会の実態と文字の起源を、徹底的な分析で鮮やかに解き明かす。

毎日新聞 2025/03/22

2025:2./ 269p
978-4-15-340038-2
¥1,364〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

秘仏の扉

永井 紗耶子 著
文藝春秋
フェノロサと岡倉天心によって開かれた法隆寺・夢殿の扉。秘仏・救世観音像の微笑みに彼らが見たものとは。近代化と伝統の狭間で揺れる人々の葛藤と矜持を描く歴史小説。『オール讀物』掲載に書き下ろしを加え単行本化。

毎日新聞 2025/03/22

2025:1./ 289p
978-4-16-391931-7
¥1,760〔税込〕

学習院コレクション～芸術と伝統文化のパトロネージュ～

霞会館記念学習院ミュージアム 編
世界文化社
霞会館記念学習院ミュージアムが収蔵する 25 万点以上のコレクションから、「日本皇室特有の工芸品」として世界から認識されている「ボンボニエール」や皇室から下賜された優美な「ドレス」をはじめ、精選された至宝を収録。

毎日新聞 2025/03/22

2025:1./ 207p
978-4-418-25200-8
¥2,970〔税込〕

没入読書

渡邊康弘 著
サンマーク出版
スマホの通知音などの刺激から脱し、本に集中する「没入読書」を紹介。集中力を自動的に高める方法、「47 秒間読書」や「10 分間指速読」などを公開する。折り込みの「レゾナンスマップ」付き。

毎日新聞 2025/03/22

2025:3./ 206p
978-4-7631-4204-7
¥1,650〔税込〕

台湾文学の中心にあるもの

赤松美和子 著
イースト・プレス
激動する歴史の中で、文学が社会を動かし、文学が人のパワーの根源となっている台湾。日本語で読める約 50 作品を紹介しながら、政治に翻弄されつつも必死に格闘し、社会に介入してきた台湾文学を読み解き、その全貌を示す。

毎日新聞 2025/03/22

2025:1./ 285p
978-4-7816-2415-0
¥1,980〔税込〕

あたらしい近代服飾史の教科書～衣服の標本で見る、着るものの歴史と文化～

長谷川 彰良 著
翔泳社
フランス革命前後や 19 世紀半ばからの西洋の衣服がどのようなもので、どのように変化していったのか、豊富な写真を添えて解説。生地のアップや裏側、ステッチ、ボタンや刺繍など、衣服の内部構造もわかる。

毎日新聞 2025/03/22

2025:1./ 447p
978-4-7981-7827-1
¥4,620〔税込〕

オリーヴァ・デナーロ

ヴィオラ・アルドーネ 著
小学館
1960 年代、シチリア島の小村。16 歳の少女は、裕福な菓子店の息子に誘拐され性暴力を受けた。被害者に結婚を申し出ることで加害者が免罪されるとする法律のせいで、周囲からはその男との結婚を迫られ…。

毎日新聞 2025/03/22、読売新聞 2025/03/30

2025:3./ 298p
978-4-09-356748-0
¥2,970〔税込〕

幸あれ、知らんけど

平民金子 著
朝日新聞出版
神戸の街で 40 歳から子育てを始めた父と娘の、平凡だけどかけがえのない日常。集団登校を見守り、50 歳を前にサッポロ塩ラーメン生活を捨て…。中高年の心にしみるエッセイ集。『朝日新聞』連載等に書き下ろしを加え書籍化。

毎日新聞 2025/03/29

2025:3./ 237p
978-4-02-252041-8
¥1,870〔税込〕

キーウで見たロシア・ウクライナ戦争～戦争のある日常を生きる～(星海社新書 318)

平野 高志 著
星海社
ロシア・ウクライナ戦争下、ウクライナ国民はどのように生活し、何を感じているのか。空襲、物資、娯楽、徴兵、復興…。ウクライナ在住 16 年の日本人記者が、「戦争のある日常」を包み隠さず語る。

毎日新聞 2025/03/29

2024:11./ 191p
978-4-06-537679-9
¥1,320〔税込〕

天使も踏むを畏れるところ<上>

松家 仁之 著
新潮社
敗戦から 15 年、空襲で焼け落ちた明治宮殿の跡地に、皇居「新宮殿」造営の大プロジェクトが動き出す。村井俊輔を中心に、「象徴天皇」にふさわしい宮殿のありかたを懸命に模索する人びとを描く。『新潮』連載を単行本化。

毎日新聞 2025/03/29

2025:3./ 545p
978-4-10-332814-8
¥2,970〔税込〕

天使も踏むを畏れるところ<下>

松家 仁之 著
新潮社
皇室の伝統と民主社会の節点を探りながら、「新宮殿」の設計は佳境を迎えようとしている。建築家・村井俊輔を支える者、反目する者、立ちはだかる壁…。理想の建築をめぐる人間ドラマを描く大長篇。『新潮』連載を単行本化。

毎日新聞 2025/03/29

2025:3./ 545p
978-4-10-332815-5
¥2,970〔税込〕

インサイト(戦闘妖精・雪風)

神林　長平 著

早川書房

“ジャムを演じる”アグレッサー部隊に配属された深井零と雪風は、レイフとともに、日本空軍の田村伊歩大尉が駆る飛燕ほか地球連合軍との模擬戦に臨んだ。クーリィ准将は、伊歩に雪風を操縦させる思惑を秘めていたが-。

毎日新聞 2025/03/29

2025:2./ 379p
978-4-15-210403-8
¥2,200〔税込〕

おあげさん～油揚げ 365 日～(文春文庫　ひ 20-16)

平松 洋子 著

文藝春秋

母のひろうす、愛しの松山あげ、伊東のいなり寿司、きつねうどん誕生秘話、江戸時代の油揚げ、対談、日々の使えるレシピ…。油揚げのことばっかりを書いた 29 編の偏愛エッセイ。

毎日新聞 2025/03/29

2025:3./ 218p
978-4-16-792345-7
¥858〔税込〕

世界で一番美しい工具図鑑

セオドア・グレイ 著

創元社

人とモノをつなぎ世界を豊かにしてゆく工具。ハンマーから、標的打ち工具、切削工具、ドリル、レンチ、加熱工具、ドライバー、測定用具、クランプまで、118 種類の工具を美しい写真とともに紹介する。

毎日新聞 2025/03/29

2024:12./ 255p
978-4-422-50004-1
¥4,950〔税込〕

鋼の王国プロイセン～興隆と衰亡 1600-1947～<上>

クリストファー・クラーク 著

みすず書房

近代国家の形を作り、啓蒙主義が花開き、戦後に消滅したプロイセンの約 350 年に及ぶ歴史を包括的かつ中立的に描く。上は、小さな領土の集まりだったプロイセンがヨーロッパの大国になるまでを取り上げる。

毎日新聞 2025/03/29

2024:11./ 536p
978-4-622-09746-4
¥5,940〔税込〕

鋼の王国プロイセン～興隆と衰亡 1600-1947～<下>

クリストファー・クラーク 著

みすず書房

近代国家の形を作り、啓蒙主義が花開き、戦後に消滅したプロイセンの約 350 年に及ぶ歴史を包括的かつ中立的に描く。下は、対ナポレオン闘争から、1848 年革命、4 つの戦争、ナチズム、戦後までを取り上げる。

毎日新聞 2025/03/29

2024:11./ 552p
978-4-622-09747-1
¥6,160〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

日本ファッションの一五〇年～明治から現代まで～(歴史文化ライブラリー 611)

平芳　裕子　著

吉川弘文館

明治時代の大礼服、大正時代のモボ・モガ、昭和戦時期の国民服・モンペ、戦後のみゆき族、コギャル…。西洋のファッションが、日本へいかに移入され独自のファッション文化に発展したのか、その歴史を明らかにする。

毎日新聞 2025/03/29

2024:11./ 288p
978-4-642-30611-9
¥2,090〔税込〕

文章に生きる～チェーホフと、エスノグラフィーを書く～

キリン・ナラヤン 著

新曜社

エスノグラフィーとクリエイティブ・ノンフィクションが出会う、心を引き込むエスノグラフィーをどうしたら書くことができるだろう。ロシアの作家アントン・チェーホフに学びながらその技を身につける。

毎日新聞 2025/03/29

2025:1./ 288p
978-4-7885-1865-0
¥3,740〔税込〕

ギリシャ語の時間(韓国文学のオクリモノ)

ハン・ガン 著

晶文社

ある日突然言葉を失った女。すこしずつ視力を失っていく男。女は失われた言葉を取り戻すため古典ギリシャ語を習い始める。ギリシャ語講師の男は彼女の“沈黙”に関心をよせていく…。人間が失った本質とは何かを問う物語。

毎日新聞 2025/03/29

2017:10./ 237p
978-4-7949-6977-4
¥1,980〔税込〕

少年が来る(新しい韓国の文学　15)

ハン・ガン 著

クオン

1980 年 5 月 18 日、韓国の光州で起きた民主化抗争・光州事件。あのとき、生を閉じた者の身に何が起きたのか。生き残った者は、あれからどうやって生きてきたのか。光州事件で命を落とした人々への鎮魂の物語。

毎日新聞 2025/03/29

2016:10./ 275p
978-4-904855-40-9
¥2,750〔税込〕

引き出しに夕方をしまっておいた(セレクション韓・詩 01)

ハン・ガン 著

クオン

ある日 運命が訪ねてきて 私に声をかけ 私があなたの運命なのだよ、私のことが気に入ったかい、と尋ねるなら 私は静かに彼を抱きしめて ずっとそうしていることだろう。(「序詩」より) 小説家が綴った詩集。

毎日新聞 2025/03/29

2022:6./ 189p
978-4-910214-28-3
¥2,420〔税込〕